

佐久市立中央図書館建替再整備  
基本構想（案）

佐久市教育委員会  
社会教育部 中央図書館

はじめに

## 目次

第1章 図書館基本構想策定の背景と目的	5
1 背景と目的	5
第2章 佐久市立図書館を取り巻く状況の整理	6
1 本市の特徴	6
(1) 位置・自然	6
(2) 沿革	6
(3) 人口	6
2 佐久市立図書館の現状	7
(1) 佐久市立図書館の現在までの経緯	7
(2) 全域サービスと各館の概要	8
(3) 各館の利用実態	11
(4) 各図書館の蔵書の内訳	17
(5) 県内市立図書館との比較	19
3 市民ニーズの把握	23
(1) 市民アンケート	23
(2) 佐久市中央図書館建替再整備ワークショップ 市民ワークショップ	27
(3) 図書館協議会委員の意見	30
(4) 利用者アンケート(資料)	31
(5) ボランティアグループとの懇談会	35
4 課題の整理	37
(1) 全域サービス	37
(2) 施設面における課題	37
(3) 利用における課題	37
(4) 資料整備・蔵書における課題	38
(5) サービス面における課題	38
(6) 運営面における課題	39
(7) 財政面における課題	39
第3章 中央図書館の役割と機能	41
1 中央図書館の役割、その経緯	41
2 中央図書館の機能	41
(1) サービス対象地域	41
(2) 図書館運営	42
(3) 図書館サービス	42
(4) 資料・資料保存	43
(5) 施設	45

(6) 他機関との連携、図書館間連絡の役割.....	45
3 地域館の役割と中央図書館の関係.....	47
(1) 地域館の役割.....	47
(2) 各館の沿革・特徴等.....	47
(3) 担うことができるサービス.....	48
第4章 佐久市立図書館の基本方針.....	50
1 基本方針.....	50
(1) 図書館は知へのとびら 知りたいことがわかる 新しいことがみつかる.....	50
(2) 図書館は佐久市の情報のよりどころ 佐久市の魅力に出会える 佐久市の魅力を発信する.....	50
(3) 図書館は生きる力を育む場 自分のペースで学ぶ 自分で自分を育てる.....	50
(4) 図書館はともに育つ場 だれもが等しく学びあえる 立場の違いをこえてつながる.....	50
(5) 図書館は出会いの広場 新しい交流がはじまる まちの文化が生まれる.....	51
(6) 図書館はわたしの居場所 わたしたちの居場所 わたしたち佐久市民の誇り..	51
第5章 基本計画策定までの計画.....	52
1 今後のスケジュール.....	52
(1) 事業スケジュール.....	52
2 実現に向けた課題の整理.....	52
(1) 図書館建設予定地についての考え方.....	52
(2) 複合施設の候補.....	53
(3) 交通アクセス.....	54
(4) SDGs.....	54
(5) サービス計画.....	54
(6) 運営体制の見直し.....	55
3 市民とともに.....	55
資料編.....	56

## 第1章 図書館基本構想策定の背景と目的

### 1 背景と目的

佐久市では、少子化による人口減少などに伴い厳しい財政状況が見込まれる中、公共施設等の更新や維持に係る多額の費用への対応に向け、公共施設等の適正な配置や管理の効率化を図るため改訂された「佐久市公共施設等総合管理計画」を推進するための行動計画として、施設ごとに「個別施設計画」を策定しました。

佐久市立図書館についても、市内5施設の個別施設計画を策定し、このうち、中央図書館については躯体の劣化が顕著なことから、令和8年度までを目途に他の施設との複合化も視野に入れ、上位計画である「第二次佐久市総合計画」との整合を図る中で、施設の建替再整備を行うこととしました。

これまでの主な作業として、令和4年6月に市民アンケート、同年9月からはワークショップを実施しました。また、令和5年1月に有識者等7名で構成する「佐久市立中央図書館建替再整備検討委員会」を設置し、検討委員会を開催しました。検討委員会では、佐久市の状況を把握していただいたうえで、新しい中央図書館のあり方について協議しました。

市民のみなさんから多様なサービスを求められている中央図書館の建替再整備にあたっては、バリアフリー化やコミュニティの創出のみならず、官民連携や他の施設との複合化、建設費用・運営費用の抑制等、多岐にわたり検討する必要があります。

これらのことを踏まえ、「佐久市教育振興基本計画」で掲げた、佐久市の教育の基本理念である「生涯にわたり主体的・創造的に学び、生きる力を育む人づくり、まちづくり」や、情報拠点として「誰もが利用しやすい居心地の良い図書館づくり」の礎とすることを目的として、基本構想を策定します。

## 第2章 佐久市立図書館を取り巻く状況の整理

### 1 本市の特徴

#### (1) 位置・自然

佐久市は、長野県の東部（東信地域）で、北に浅間山、南に八ヶ岳連峰を望み、蓼科山・双子山（八ヶ岳中信高原国定公園）、荒船山（妙義荒船佐久高原国定公園）に囲まれ、千曲川が南北に貫流する自然環境に恵まれた高原都市で、平成17年（2005年）に4つの市町村（佐久市・臼田町・浅科村・望月町）が合併して誕生しました。

市役所位置の標高は692m、市域は東西32.1km、南北23.1kmで、面積は423.51km<sup>2</sup>です。

気温の較差が大きく、降水量が少ないなど、典型的な内陸性気候を示す高燥冷涼地で、気象観測史上、熱帯夜を一度も記録したことがありません。また、国内でも有数の日照時間が長い地域となっています。

#### (2) 沿革

市内では、国内最古の石刃が出土した香坂山遺跡を始めとする、数多くの原始・古代の遺跡が発掘され、古くから人々が暮らしていたことが立証されています。

江戸時代には、五街道のひとつとして整備された中山道の各宿場町がにぎわいを見せ、佐久甲州街道と合わせて交通の要衝の役割を果たすとともに、様々な文化が生まれ育ちました。

近年は、北陸新幹線、上越自動車道、中部横断自動車道などの高速交通網の整備に伴い、まちの姿も大きく変わってきています。市内に北陸新幹線佐久平駅と6つの高速道路のインターチェンジを有することから、高速交通網の結節点、交流圏の拠点として飛躍的な発展が期待されています。

#### (3) 人口

佐久市の令和2年の国勢調査人口は98,199人で、県内第4位の人口規模です。

しかしながら、昭和45年以降増加傾向で推移してきた人口が、平成27年に減少に転じた後、継続して減少しています。一方、総世帯数は増加傾向で、1世帯当たりの人員が減少しています。また、65歳以上の老年人口の割合は、平成29年に初めて30%を超え、令和2年には31.2%となりましたが、年少人口と生産人口は減少傾向にあり、少子高齢化が進行しています。人口の年齢別構成を全国と比較すると、20代の人口が男女ともに少なくなっていることから、高校卒業後の進学・就職において、東京などの都市部に若者が流出していることが影響していると考えられます。

## 2 佐久市立図書館の現状

### (1) 佐久市立図書館の現在までの経緯

佐久市立図書館（現在の佐久市立中央図書館）は、昭和 54（1979）年 4 月、現在の地、猿久保の駒場公園内に建設され開館しました。図書館の開館より先に、昭和 47（1972）年から移動図書館車「草笛号」の運行を開始しています。

開館にあたっては、また開館後にも、市民や市にゆかりのある方々から多くの寄付が寄せられました。それが現在の山室文庫、相馬文庫、原野文庫につながっています。

以下、建物に関する経緯を年表にしました。

昭和 54（1979）年	佐久市立図書館の建物が建設されて開館した。鉄筋コンクリート 2 階建て、延床面積 993.43 m <sup>2</sup> 。
平成 9（1997）年	佐久市立図書館の建物西側に 2 階建ての建物を増築した。増築した延床面積は、647.10 m <sup>2</sup> 。これ以降、中央図書館の面積の増加はなし。
平成 17（2005）年	佐久市、臼田町、浅科村、望月町が合併して新佐久市が誕生した。図書館は、各市町村に 1 館ずつあった。
平成 19（2007）年	コンピュータシステムによるネットワーク化が実現した。佐久市立図書館が中央図書館に位置づけられた。
平成 20（2008）年	中込地区に複合型公共施設が建設され、その 2 階にサングリモ中込図書館が設置された。床面積は 244.37 m <sup>2</sup> 。
平成 24（2012）年	老朽化していた望月図書館が望月支所（旧望月町役場）の 2 階を改装し移転した。

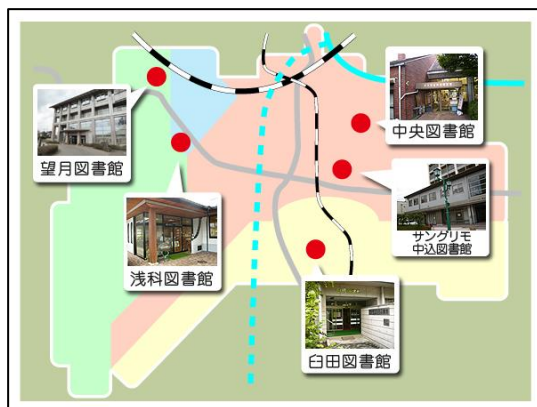
## (2) 全域サービスと各館の概要

### ア 全域サービス

佐久市立図書館は、旧佐久市立図書館を中央図書館としています。サングリモ中込図書館は中央図書館の分館です。旧町村の3館（臼田図書館、浅科図書館、望月図書館）は、地域館として位置づけ、一定程度の独立性を持たせながら運営しています。また、移動図書館が市内71ヵ所のステーションを巡回しています。

市内の図書館は、移動図書館も含めてネットワーク化されています。図書館資料の受け渡しは週2回、中央図書館を基地にしている巡回車が各館をまわっておこなっています。これにより、利用者は希望する図書館で予約した図書館資料を受けとることができます。市内に図書館がない空白地区はなく、移動図書館のステーションが多数あることから、全域サービスはほぼ行われているといえます。

ただし、移動図書館のステーションから遠い住民、施設入居者、健康状態等の事由で自宅から出られない人への把握は充分ではありません。また、場所や時間の制約がある移動図書館は、利用しにくい人も多いと思われます。今後はこのような課題もふまえて図書館のサービス計画を立てていく必要があります。



佐久市立図書館ホームページより



イ 施設の概要

表 2-1 各館の施設の概要

名 称	住所・電話番号	延床面積	開設時期
中央図書館	〒385-0011 佐久市猿久保 44-1 TEL 67-2111 FAX 67-7772	1,640.53 m <sup>2</sup>	昭和 54 年 4 月 平成 9 年 8 月増築
サングリモ中込 図書館	〒385-0051 佐久市中込 1-19-2 TEL 63-3793 FAX 63-3793	244.37 m <sup>2</sup>	平成 20 年 4 月
臼田図書館	〒384-0303 佐久市下小田切 124- 1 (コスモホールと併設) TEL 82-3932 FAX 81-4413	620.00 m <sup>2</sup>	平成 3 年 7 月
浅科図書館	〒384-2106 佐久市八幡 229 (交流文化館浅科と併設) TEL 58-4321 FAX 58-3066	966.7 m <sup>2</sup>	平成 4 年 6 月 平成 14 年 4 月増築
望月図書館	〒384-2202 佐久市望月 263 (佐久市望月支所 2 階) TEL 53-0230 FAX 53-0231	1,243.9 m <sup>2</sup>	平成 7 年 8 月 平成 25 年 3 月移転
移動図書館 「草笛号」	積載可能冊数 約 2,500 冊 各ステーション年間 15 回巡回 ・旧佐久市内 原則（水・金） 6 コース、62 ステーション ・臼田、浅科、望月地区内 原則（木） 1 コース、9 ステーション		昭和 47 年 10 月 昭和 60 年 4 月更新 平成 14 年 4 月更新 平成 30 年 4 月更新

## ウ 各館の規模

表 2-2 は、図書館のある地域ごとに、住民の人口と図書館の延床面積の関係をみたものです。

住民 100 人あたりの延床面積をみると、浅科図書館は 16.7 m<sup>2</sup>、望月図書館は 15.5 m<sup>2</sup>です。対して中央図書館（旧佐久地域）は 2.6 m<sup>2</sup>、臼田図書館は 4.9 m<sup>2</sup>です。旧佐久地域と臼田地域の図書館が狭いことがわかります。

日本図書館協会による数値基準<sup>1</sup>にもとづいて各地域に必要な図書館の延床面積を算出してみると、浅科図書館、望月図書館が一定程度の面積を確保しているのに対して、旧佐久地域にある現中央図書館、臼田地域にある臼田図書館は、住民の人口に対する面積が狭くなっています。

佐久市全体でみると、佐久市人口 97,949 人に対して、日本図書館協会による数値基準の場合 4,599 m<sup>2</sup>になります。佐久市の図書館全体の延床面積を合計すると 4715.5 m<sup>2</sup>ですから、合計だけみると基準を超える数値です。

全市をネットワークでつないで運営している図書館は、必ずしもそれぞれの館が表にあるとおりの床面積を確保しなければいけないことはありません。重複する機能を減らすこともできるからです。しかし、表 2-2 でわかるとおり、現中央図書館は旧佐久地域の住民にサービスする面だけでも大変狭いといえます。中央図書館は全市を対象としてサービスする必要があります。中央図書館の狭さは、数値の上からも確認することができます。

なお、旧佐久市立図書館では、市内に分館・分室を設置するかわりに移動図書館の運行で全域サービスを補ってきました。現在もその状態は続いています。移動図書館の運行は今後も必要ですが、建物の面積については、移動図書館サービスとは別に考える必要があります。

---

<sup>1</sup> 『公立図書館の任務と目標解説』改訂版増補，日本図書館協会図書館政策特別委員会編，日本図書館協会 2009，p 82-84.

表 2-2 市内各地域の面積・人口と図書館の延床面積

地域	住民数(人) (R5.4.1 住民台帳)	図書館の延床面積(m <sup>2</sup> )	住民 100 人 (R5.4.1) あたりの図書館の延床面積(m <sup>2</sup> )	日本図書館協会による数値基準による延床面積(m <sup>2</sup> )
(旧)佐久	71,417	1884.9	2.6	3,804
白田	12,743	620.0	4.9	1,372
浅科	5,777	966.7	16.7	1,080
望月	8,012	1243.9	15.5	1,136
佐久市(合計)	97,949	4715.5	4.8	4,599

(注 1) (旧) 佐久市の延床面積は、中央図書館とサングリモ中込図書館の合計。

### (3) 各館の利用実態

#### ア 利用者登録率と各館の利用者

利用登録率は、住民の何割が図書館に利用登録をしているかを示した数字です。佐久市では、登録して3年以内の人を有効人数としています。地域の人口をもとに、各地域図書館の登録率を出しました(表 2-3)。

表 2-3 でみると、佐久市全体の登録率は 58%です。中央図書館(サングリモ中込、移動図書館の数値を含む)は 56%、白田図書館は 56%、望月図書館は 58%です。いずれも 5 割強の数値になっています。一方、浅科図書館の登録率は 85%です。浅科図書館の登録率が特別高いのは、浅科地域の住民の登録者が多いということではなく、他地域からの登録者が混じっているからではないかと考えられます。

実際に登録者の住所を確認しますと、浅科図書館の登録者は、地元の浅科や隣接する望月地域の合計人数より、他地域の住民の方が多いことがわかりました(図 2-1)。

表 2-3 図書館別登録率（令和 4 年度）

	旧佐久市（中央・サングリモ・移動図書館）	臼田	浅科	望月	合計
地域人口(R5.4.1 現在) (人)	71,417	12,743	5,777	8,012	97,949
有効登録者数(R5.3.31) (人)	39,980	7,192	4,926	4,646	56,744
地域人口に対する登録率	56%	56%	85%	58%	58%

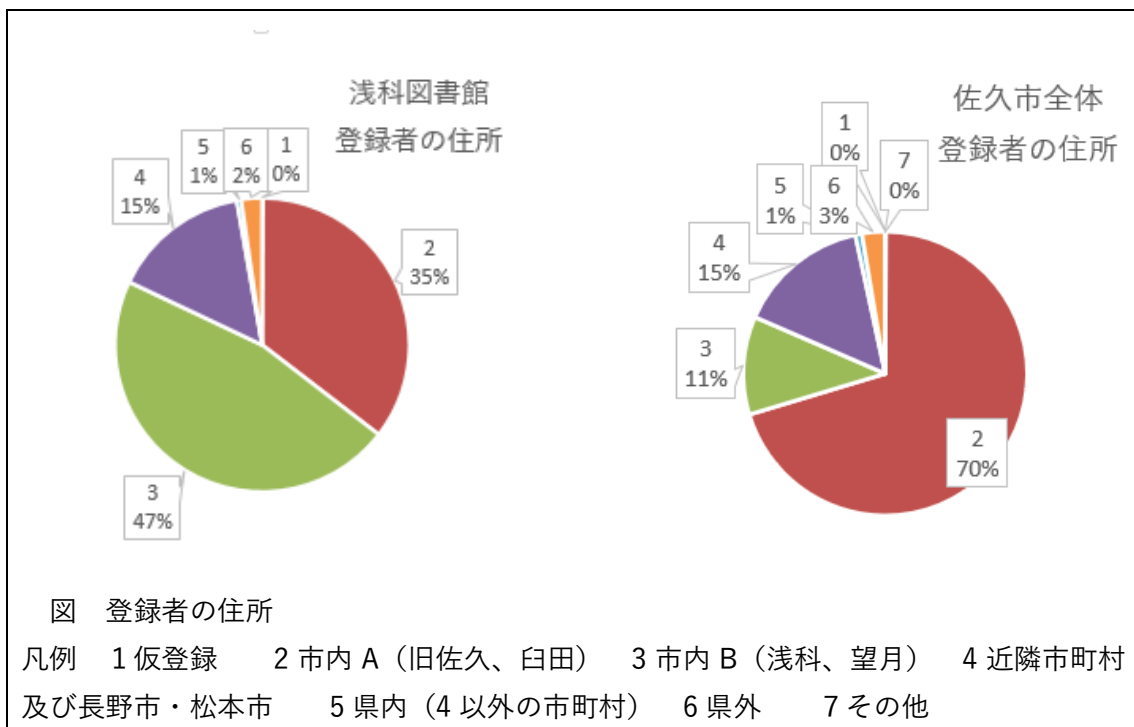


図 2-1 登録者の住所 浅科図書館と佐久市全体の場合

イ 実利用者と各地区の利用の実態

先にみたように佐久市の図書館登録率は 5 割を超えています。しかし、実利用者（令和 4 年度）は人口の約 1 割です。登録率に対して実利用者が少ないのは、住んでいる地域が影響しているのでしょうか？ そこで、各地域の実利用者の地域人口に対する割合を調べてみました（図 2-2）（図 2-3）。

図 2-2 は、旧町村単位（昭和 36 年に合併した浅間町，野沢町，中込町，東村の旧佐久市，及び平成 17 年に合併した臼田町，浅科村，望月町）の地域で調べてみました。

市全体の実利用者の割合の平均は 11%であり、地域ごとの平均は 9.7%から 12.1%の範囲にあります。地域ごとの差は比較的小さいといえます。中込地区と東地区が他地区と比べて若干高いのは、同地域に中央図書館や分館があるためと考えられます。

図 2-3 では、各地域をさらに字に分けて利用率をみました。ここでも図書館に近い地域の利用者が他の地域に比べて多くなっています。岩村田、中込、三井、本牧、協和です。他方、小田井と青沼が目立って低くなっています。この理由は現在不明です。今後、隣町の図書館との位置、児童数との関係も含めて検証する必要があります。

図 2-2、図 2-3 を通して、図書館が近くにある地域の住民の利用は高いということがわかりました。しかし、小田井地区、青沼地区を除くと、極端に利用率が低い地域はありません。図書館の登録をしたものの、その後の図書館の利用を促すものがなかったのではないかと考えられます。

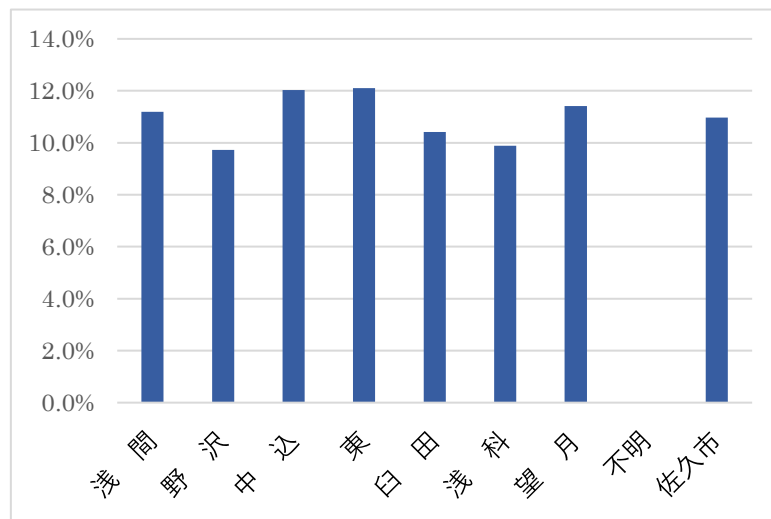


図 2-2 地域別人口に対する実利用者の割合 (令和 4 年度)

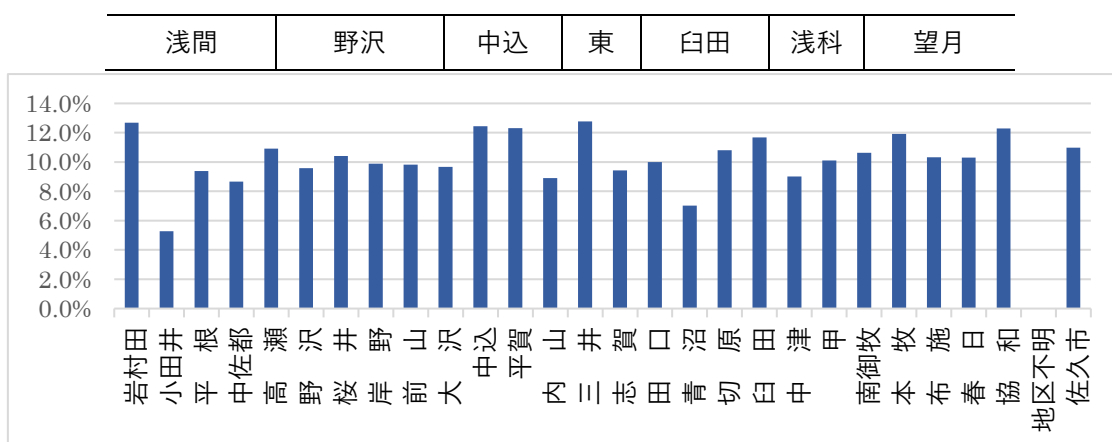


図 2-3 小地域別人口に対する実利用者の割合 (令和 4 年度)

#### ウ 移動図書館「草笛号」

移動図書館の令和4年度の全利用者数は、2,133人です。移動図書館は、年間15回巡回するので、単純な平均では実利用者数は142.2人となります。

令和4年度で一番利用者が多かったステーションは、第1コース長土呂の137人です。平均すると、1回に9人くらいの利用者があることとなります。逆に全ステーション71ヵ所のなかには、1年間全く利用がなかったステーションもあります。

なお、保育園や老人介護施設にも巡回しているので、利用者数が少なくても貸出冊数が多い場合もあります。保育園や老人介護施設では、園児や入居者が個々人で利用せず、保育士や職員が代表で利用する形をとっていることが多いからです。

表 2-4 移動図書館「草笛号」ステーション別貸出人数

(貸出人数)

コース	NO.	ステーション名	R2年度	R3年度	R4年度
1	1	稲荷町(岩村田保育園跡地)	27	16	21
	2	一本柳	7	9	8
	3	相生町(若宮児童公園)	81	65	84
	4	稲荷町(浅間会館)	96	74	108
	5	荒宿(湯川職員住宅)	14	3	1
	6	長土呂(ねむの木公園)	99	88	137
	7	岩村田北(雇用促進)	3	3	1
	8	小田井下宿	1	1	0
	9	紅雲台	34	24	19
	10	大和町	39	22	9
2	1	上平尾(平根保育園)	61	44	58
	2	花園町(花園団地)	45	26	18
	3	新子田	18	12	16
	4	東地(防災庫前)	27	9	4
	5	東会館	9	8	7
	6	駒込	18	14	13
	7	志賀上宿	1	4	2
	8	瀬戸	3	3	3
	9	西耕地	21	13	8
	10	樋村	8	12	15
3	1	鳴瀬(高瀬保育園)	35	31	38
	2	赤岩	24	14	22
	3	塚原(中佐都保育園)	65	57	21
	4	大塚団地	6	1	0
	5	根々井(公会場駐車場)	11	6	13
	6	今井	9	12	28
	7	白山	58	43	56
	8	南岩尾	42	29	34
	9	北岩尾	20	13	16
	10	下塚原	7	2	15

4	1	黒田	52	38	59
	2	苦水	2	2	5
	3	町(内山集会場西)	42	13	10
	4	松井	10	1	0
	5	平賀新町(関製作所入口)	19	1	9
	6	平賀中宿(城山小入口)	24	15	10
	7	平賀(アヴェニュー)	108	64	69
	8	太田部	63	52	68
	9	三家(佐久職員宿舎)	2	2	11
	10	佐太夫町(雇用促進)	33	12	26
5	1	高柳	6	28	32
	2	鍛冶屋	43	37	49
	3	取出町	85	69	79
	4	大沢(大沢保育園)	45	35	27
	5	大沢新田	20	20	20
	6	ひらか愛の郷	45	40	47
	7	跡部	32	12	2
	8	中小屋	62	54	20
	9	原	18	13	2
	10	橋場(中込第一保)	15	21	15
	11	旧中込学校	10	4	3
6	1	桜井	44	40	64
	2	弥生ヶ丘	7	10	6
	3	泉団地	89	55	79
	4	泉野	13	1	6
	5	三塚(北斗荘前)	34	26	43
	6	下奥南(結の里千曲)	26	32	23
	7	下奥(下奥東バス停)	32	24	17
	8	平井	52	32	52
	9	日向	33	16	9
	10	下平(伊坂建設)	23	21	17
	11	泉(泉保育園)	46	55	52
7	1	田口(うすだ愛の郷)	58	46	58
	2	下越(あいとびあ)	72	61	86
	3	入沢	19	9	33
	4	下小田切(老福)		4	21
	5	白田(健康館)	96	86	71
	6	御馬寄(浅科保育園)	17	14	16
	7	春日(御鹿の郷)	52	38	78
	8	布施(中居創作館)	38	49	61
	9	塩名田(旧浅科公民館)	8	11	3
	計		2,384	1,821	2,133

ほかに児童館貸出あり

表 2-5 移動図書館「草笛号」ステーション別貸出冊数

(貸出冊数)

コース	NO.	ステーション名	R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度
1	1	稲荷町 (若村田保育園跡地)	109	29	84
	2	一本柳	33	59	35
	3	相生町 (若宮児童公園)	319	244	216
	4	稲荷町 (浅間会館)	514	431	528
	5	荒宿 (堀川職員住宅)	92	9	8
	6	長土居 (ねむの木公園)	602	561	811
	7	岩村田北 (雇用促進)	5	6	6
	8	小田井下宿	1	1	0
	9	紅雲台	155	112	90
	10	大和町	211	126	50
2	1	上平尾 (平根保育園)	750	486	761
	2	花園町 (花園団地)	253	143	101
	3	新子田	414	234	287
	4	東地 (防災庫前)	45	17	10
	5	東会館	26	22	11
	6	駒込	89	71	71
	7	志賀上宿	1	10	8
	8	瀬戸	4	10	10
	9	西耕地	70	49	31
	10	樋村	34	60	45
3	1	鳴瀬 (高瀬保育園)	267	248	273
	2	赤岩	70	36	54
	3	塚原 (中佐都保育園)	742	660	434
	4	大塚団地	35	5	0
	5	根々井 (公会場駐車場)	75	29	55
	6	今井	48	92	148
	7	白山	368	283	243
	8	南岩尾	291	170	202
	9	北岩尾	122	55	69
	10	下塚原	39	10	63

4	1	黒田	158	133	184
	2	苦水	11	2	25
	3	町 (内山集会所西)	263	103	69
	4	松井	60	1	0
	5	平賀新町 (開製作所入口)	72	1	48
	6	平賀中宿 (城山小入口)	95	37	44
	7	平賀 (アヴェニュー)	474	235	225
	8	太田部	413	354	455
	9	三家 (佐久職員宿舎)	7	2	56
	10	佐太夫町 (雇用促進)	85	23	94
5	1	高柳	18	71	76
	2	鍛冶屋	240	211	309
	3	取出町	403	319	360
	4	大沢 (大沢保育園)	659	555	340
	5	大沢新田	96	96	90
	6	ひらか愛の郷	387	339	510
	7	跡部	177	52	7
	8	中小屋	189	174	83
	9	原	116	102	16
	10	橋場 (中込第一保)	427	406	419
	11	旧中込学校	17	5	7
6	1	桜井	224	166	269
	2	弥生ヶ丘	27	48	18
	3	泉団地	428	257	323
	4	泉野	89	10	47
	5	三塚 (北斗荘前)	200	156	263
	6	下黒崎 (黒の里千曲)	237	232	297
	7	下黒 (下黒東バス停)	223	166	98
	8	平井	147	78	144
	9	日向	239	102	50
	10	下平 (伊坂建設)	174	138	102
	11	泉 (泉保育園)	500	538	643
7	1	田口 (うすだ愛の郷)	311	269	316
	2	下越 (あいとびあ)	378	263	339
	3	入沢	110	70	243
	4	下小田切 (老福)		60	173
	5	白田 (健康館)	388	380	382
	6	御馬寄 (浅科保育園)	390	284	326
	7	春日 (御鹿の郷)	492	344	815
	8	布施 (中居創作館)	236	356	432
	9	塩名田 (旧浅科公民館)	20	34	12
	計		14,964	11,440	13,413

ほかに児童館貸出あり



(4) 各図書館の蔵書の内訳

表 2-6 は、各図書館の蔵書を資料種別にあらわしたものです。

図 2-4 で各図書館の資料種別の冊数を図にあらわしました。どの館も資料種のなかでは一般書が多くなっています。また、絵本は、中央図書館が 2 万冊近く所蔵していますが、臼田、浅科、望月図書館も 1 万冊以上所蔵しています。

参考資料、郷土資料は、中央図書館が多くなっています。郷土資料については、冊数だけでなく、各資料の評価についても検証する必要がありますが、現在未調査です。

図 2-4 は、資料種別に所蔵館の割合をみたものです。参考資料、多言語資料の所蔵の割合は、中央図書館が多くなっていますが、視聴覚資料は、浅科図書館の方が多く所蔵しています。

なお、ヤングアダルト<sup>2</sup>向け資料は浅科図書館しか区別していないため、この表には記載していません。

表 2-6 図書館ごとの資料種別蔵書数 令和 4 (2022) 年 3 月 31 日現在

(単位 冊)

資料種	中央	サングリモ	臼田	浅科	望月	草笛号	全体
一般図書	130,728	17,762	36,672	42,645	33,751	2,481	264,039
参考	3,856	101	704	702	666	0	6,029
郷土	10,372	324	5,682	4,268	2,782	138	23,566
多言語	1,451	0	140	471	0	0	2,062
児童	30,338	4,495	15,975	16,333	15,456	1,187	83,784
紙芝居	2,447	267	1,168	844	481	100	5,307
絵本	19,378	4,858	11,343	12,317	10,010	2,598	60,504
雑誌	4,209	383	1,282	2,144	757	176	8,951
AV資料	1,179	0	1,244	1,900	515	0	4,838
全体	203,958	28,190	74,210	81,624	64,418	6,680	459,080

<sup>2</sup> 主に中高生の年代の青少年を対象にしたことば。この世代は児童でも成人でもない独自の行動様式や関心があることから、この世代に向けて図書館資料を整え、図書館サービスを行う例がある。

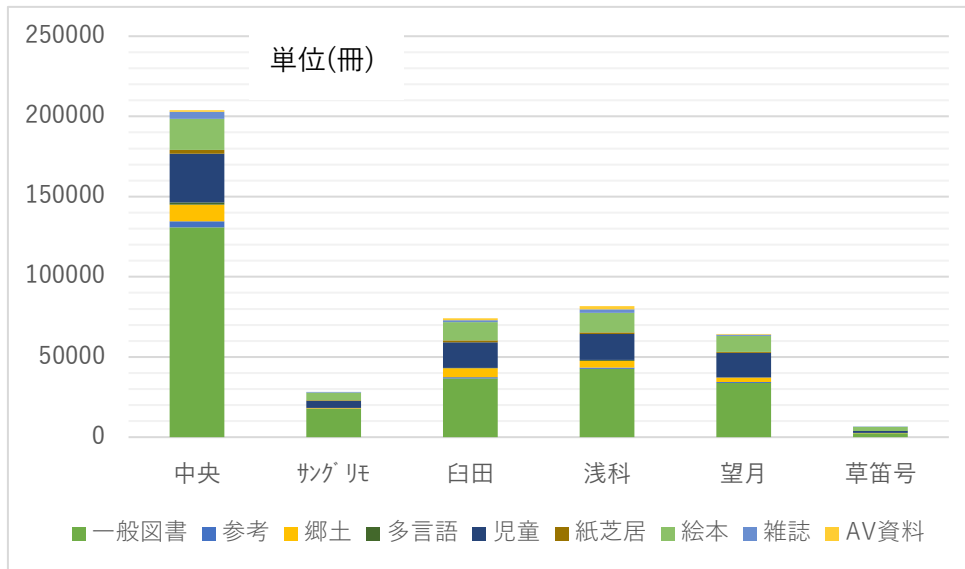


図 2-4 各図書館の資料種別冊数

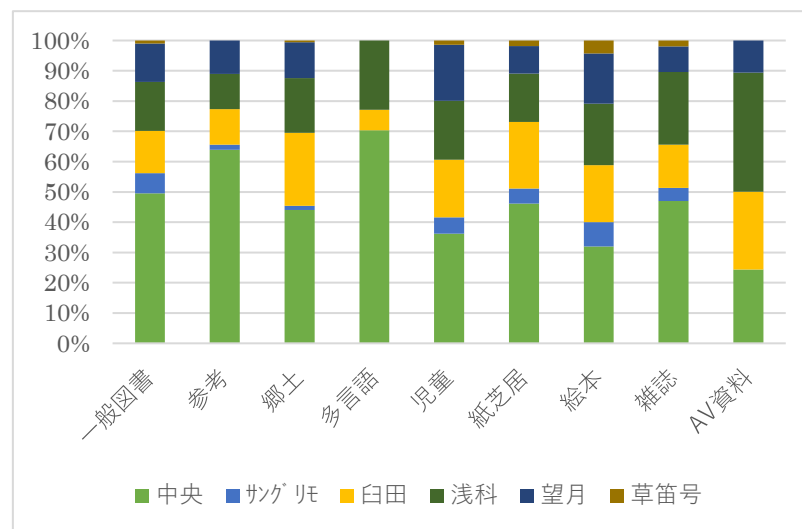


図 2-5 資料種別の所蔵館の割合

## (5) 県内市立図書館との比較

### ア 県内の市のなかでの順位

佐久市立図書館の整備状況や活動状況は、県内 19 市のなかでどのような位置にあるか、令和 4（2022）年度の「長野県公共図書館概況」<sup>3</sup>をもとにまとめてみました。

佐久市は、図書費、貸出冊数、職員数に関しては中位にあります。蔵書冊数、図書館費は中位以下です。貸出冊数は、蔵書冊数、図書館費に比べると順位が高くなっています。貸出を高める努力をしている結果であることがうかがえます。

表 2-7 佐久市立図書館の整備状況、活動状況 県内 19 市の中の順位

	一位の市	佐久市の順位
人口 1 人あたり蔵書冊数	飯田市	13 位
人口 1 人当たり図書館費	塩尻市	15 位
人口 1 人当たり図書費	塩尻市	8 位
人口 1 人当たり貸出冊数	塩尻市	6 位
人口 1 人当たり職員数	塩尻市	8 位

### イ 飯田市、塩尻市との比較（資料整備、職員）

飯田市、塩尻市は、県内外から図書館活動が活発な自治体として知られています。両市は佐久市と人口規模が近いので、『令和 4 年度 長野県公共図書館概況』をもとに基本的な数値を比較してみました（表 2-8）。

#### （ア）資料整備に関すること

佐久市の図書費は両市より少ない。同様に蔵書冊数も少なくなっている。雑誌の種類が飯田市、塩尻市と比べて少ない、視聴覚資料が塩尻市と比べて少ない。

#### （イ）職員に関すること（非正規職員は勤務時間の換算による）

塩尻市の職員数は、佐久市、飯田市の 2 倍以上である。佐久市と飯田市の職員数は近いが司書率に差がある。塩尻市、飯田市の司書率は 6 割以上だが、佐久市は 4 割に達していない。

<sup>3</sup> 『令和 4 年度 長野県公共図書館概況』県立長野図書館総務企画課編，県立長野図書館，長野県図書館協会公共図書館部会，2022。

<https://www.knowledge.pref.nagano.lg.jp/alliance/lib/general.html>

表 2-8 飯田市、塩尻市との比較（蔵書数、貸出冊数ほか）

	単位	佐久市	飯田市	塩尻市	全県
1人あたり図書費	円	215	281	417	223
奉仕対象人口	人	97,692	96,204	66,602	2,022,009
図書費	千円	21,000	26,991	27,776	—
1人あたり蔵書冊数	冊	4.5	8.3	7.6	5.5
蔵書冊数	冊	438,302	795,791	505,820	11,218,000
受入冊数	冊	12,688	18,837	15,460	—
受入雑誌数	種	174	438	454	—
受入新聞数	種	42	39	31	—
視聴覚資料点数	点	2,329	1,884	11,178	—
うちR3年度受入点数	点	61	62	139	—
除籍冊数	冊	9,886	9,807	13,261	—
1人あたり貸出冊数	冊	5.9	6.8	10.2	5.3
個人貸出冊数	冊	574,497	651,434	681,761	10,727,000
予約冊数	冊	41,124	67,206	113,064	—
うちネット予約冊数	冊	30,454	40,337	85,765	—
司書率	%	39.5	63.3	63.1	51.9
職員数	人	43.0	44.1	65.0	856
うち司書	人	17.0	27.9	41.0	444
中央館(本館)の概要		独立館	独立館	複合館	
延面積	m <sup>2</sup>	1,641	2,507	3,286	—
図書収容能力	万冊	20	35	50	—
不正持出防止装置		×	○	○	—
Wi-Fi		○	○	○	—
PC等持込み		指定場所可	指定場所可	指定場所可	—
利用者用端末台数	台	3	4	25	—
うちインターネット端末	台	2	4	8	—
有料データベース	種	2	3	7	—
ボランティア受入		1.2.5	2.3.4.5	1.3.5	—

※ボランティア受入：1 児童サービス,2 障害者サービス,3 書架整理,4 環境美化,5 図書修理・装備

出典：『令和4年度 長野県公共図書館概況』より作表

ウ 飯田市、塩尻市との比較（財政）

ここでは、佐久市と飯田市、塩尻市の図書館に関わる財政を比較しました（表 2-9）。

佐久市の令和 4 年度の当初予算額は、飯田市、塩尻市に比べて高く、教育費は飯田市の 2 倍以上、塩尻市の 3 倍近くになっています。社会教育費の額は、飯田市の 1.8 倍、塩尻市の 2.4 倍です。

一方、図書館の費用に焦点を当ててみると、1 人あたりの図書館費に差があります。額そのものが両市より低くなっています。図書館費の額は、塩尻市の 43%、飯田市の 79%です。図書館費における図書費の割合を算出してみると、佐久市 21.6%、飯田市 21.9%、塩尻市 12.4%になります。塩尻市は図書費も多いですが、図書費を含めた図書館費の費用が突出していることがわかります。

表 2-9 飯田市、塩尻市との比較（財政）

	単位	佐久市	飯田市	塩尻市	全県(各館合計)
1人あたり図書館費	円	<b>995.5</b>	1283.4	<b>3374.6</b>	1622.7
奉仕対象人口	人	97,692	96,204	66,602	2,022,009
図書館費用	千円	97,253	123,470	224,753	3,281,147
当初予算（歳出）		49,600,000	47,750,000	31,200,000	—
当初予算（歳出） 対率	%	0.2	0.3	0.7	—
教育費	千円	9,209,427	4,276,301	3,314,838	278,393,508
教育費 対率	%	1.1	2.9	6.8	1.2
社会教育費	千円	2,342,200	1,335,016	973,660	29,266,608
社会教育費 対率	%	4.2	9.2	23.1	11.2
図書費	千円	21,000	26,991	27,776	542,570
図書館費の構成比	%	21.6	21.9	12.4	16.5

出典：『令和 4 年度 長野県公共図書館概況』より作表

(付) 令和 3 年度、令和 4 年度、令和 5 年度の教育費等の比較

予算の額は、年度によって大きな差が生じることがあります。単年度の比較では不十分ですので、令和 3 年度、令和 5 年度についても教育費、社会教育費、図書館費の額を比べてみました。佐久市の場合、小学校校舎新設のため、令和 4 年度の教育費が特別高くなっていました。ただ、図書館費に関しては、いずれの年度も飯田市、塩尻市より低くなっています（図 2-6）。

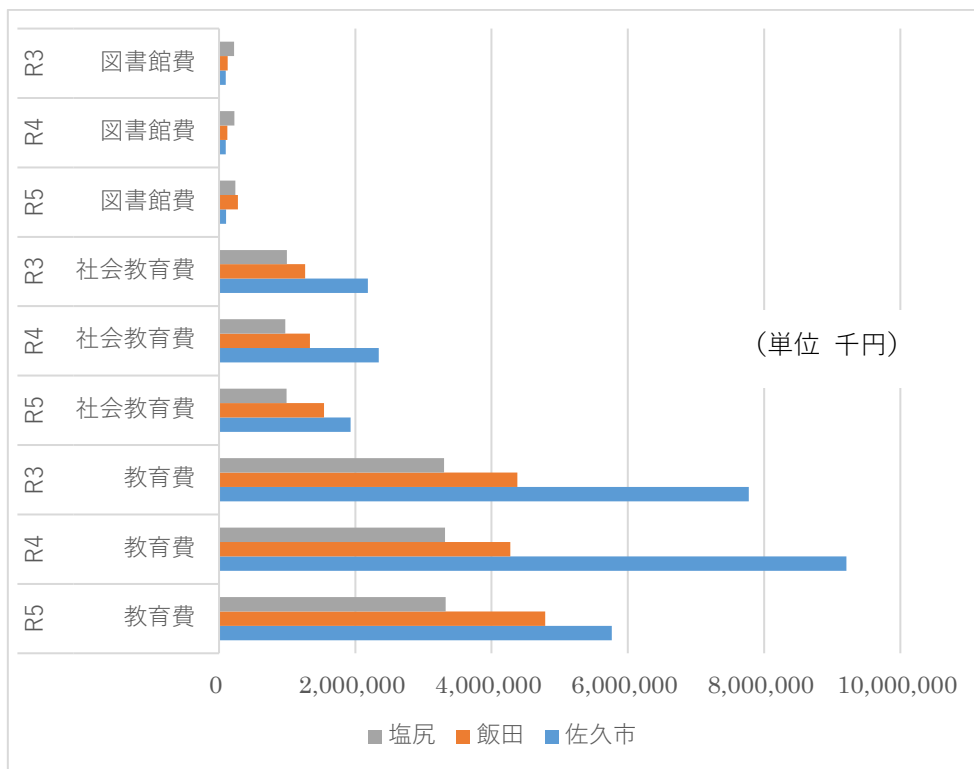


図 2-6 教育費・社会教育費・図書館費の比較 (令和 3・4・5 年度いずれも予算額)

出典：『令和 3 年度 長野県公共図書館概況』『令和 4 年度 長野県公共図書館概況』『令和 5 年度 長野県公共図書館概況』より作表

(単位 千円)

		佐久市	飯田	塩尻
R5	教育費	5,763,889	4,785,543	3,326,621
R4	教育費	9,209,427	4,276,301	3,314,838
R3	教育費	7,775,428	4,376,744	3,304,920
R5	社会教育費	1,933,071	1,542,312	989,853
R4	社会教育費	2,342,200	1,335,016	973,660
R3	社会教育費	2,185,982	1,262,036	997,052
R5	図書館費	104,299	277,130	239,116
R4	図書館費	97,253	123,470	224,753
R3	図書館費	99,086	126,876	222,773

### 3 市民ニーズの把握

#### (1) 市民アンケート

建替再整備にあたり、新図書館に求める機能や日頃の図書館利用状況を知るため、市民アンケートを実施しました。

#### ア アンケート調査の概要

調査時期	令和4(2022)年6月1日(水)～6月30日(木)(1ヵ月間)
調査対象	佐久市に住む15歳以上の男女1,000人
調査方法	郵送
有効回収数	477人 (回収率47.7% 男性175人、女性294人、無回答・不明8人)

#### イ 有効回答者の内訳

##### 【性別と年代】

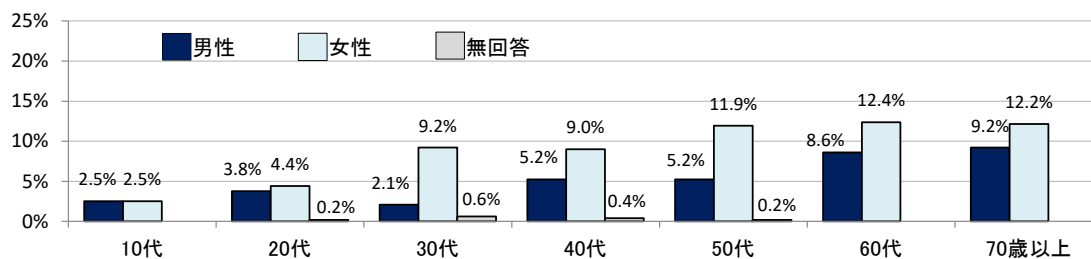


図 2-7 回答者の性別と内訳

【居住地域】

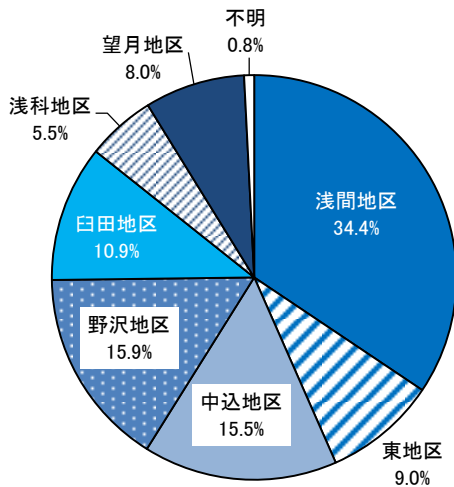


図 2-8 回答者の居住地域

【職業】

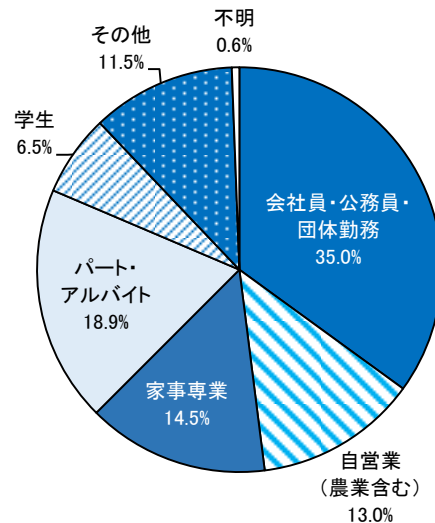


図 2-9 回答者の職業

ウ 現在の中央図書館について

(ア) 中央図書館の広さ

「少し狭い」が 29.4%で、「狭い」の 15.1%と合わせて 44.5%が中央図書館の広さについて「狭い」と回答した。「ちょうどよい」は 20.8%、「広い」と「少し広い」はともに 1%に満たない。「わからない」が 31.4%で最も多かった。

年代別では、30代と40代で「狭い」と「少し狭い」の合計が半数を超える。

一年間の利用頻度との関連では、月に1回以上利用している人では「狭い」と「少し狭い」の合計が7割以上を占める。

(イ) 中央図書館の利用度

利用したことがある人の中で最も多かったのは「過去に数回利用しただけ」の 30.4%で、「年に数回程度」が 20.8%、「月に1回程度」が 8.6%、「2週間に1回程度」が 7.3%、「週に1、2回程度」は 0.4%。「年に数回」以上利用している人の合計は 37.1%だった。「利用していない」は 32.3%。

年代別では、30代で「2週間に1回程度」が 19.3%、10代で「月に1回程度」が 16.7%と高い。60代と70歳以上は「利用していない」が4割前後と高め。

中央図書館の利用目的との関連では、「本を借りる・返す」、「館内の新聞・雑誌を読む」、「子どもに読み聞かせをする」と回答した人の利用度が高め。



#### (ウ) 中央図書館の滞在時間

中央図書館を利用していると答えた 322 人に滞在時間を聞いた。「30 分程度」が 36.0%で最も多く、「1 時間程度」は 28.3%、「1～2 時間程度」が 8.7%と続く。「その日による」は 16.1%。

年代別では、30 代は「30 分程度」が 52.2%と高く、短時間の利用が多い。20 代と 70 歳以上は「1～2 時間程度」がそれぞれ 14.8%、12.9%で、長時間利用の割合が他の年代より高め。

中央図書館の利用目的との関連では、「本を借りる・返す」人は「30 分程度」、「子どもに読み聞かせをする」人は「1 時間程度」が半数近くを占める。「勉強場所として使う」人は「1～2 時間程度」、「半日程度」が高く、滞在時間が長い。

#### (エ) 中央図書館の利用目的

前問同様、中央図書館を利用している人にその目的を挙げてもらった。最多は「本を借りる・返す」の 66.8%で、大差で続いたのは「館内で調べものをする」23.0%、「館内で読書する」18.3%、「館内の新聞・雑誌を読む」14.3%といった項目。

男女別では、女性は「本を借りる・返す」が 74.0%で男性より 20 ポイント近く高い。一方男性は「館内で調べものをする」が 29.3%で女性より 10 ポイントあまり高く、「館内で読書する」、「館内の新聞・雑誌を読む」、「勉強場所として使う」の項目も高め。

年代別では、30 代と 40 代は「本を借りる・返す」が 8 割前後と高め。50 代と 70 歳以上は「館内で調べものをする」が、10 代と 20 代は「勉強場所として使う」が高い。

### エ 新たに建替整備する中央図書館について

#### (ア) 新しい中央図書館に充実させてほしいスペース

最多は「ゆっくり読書できるスペース」の 61.4%で、「のんびり休憩のできるスペース」が 39.2%、「集中して勉強できるスペース」が 34.8%、「持込タブレット等利用可能スペース」が 30.4%と、3 項目が 3 割台で続く。

年代別では、50 代は「ゆっくり読書できるスペース」が 74.7%、30 代は「乳幼児に対応したスペース」が 56.1%と高い。10 代と 20 代は「のんびり休憩のできるスペース」、「集中して勉強できるスペース」、「持込タブレット等利用可能スペース」を 5 割前後が挙げている。60 代は「のんびり休憩のできるスペース」、「イベント・集会等のできる多目的スペース」が高め。

(イ) 新しい中央図書館に充実させてほしいサービス（複数回答）

最も多かったのは「図書・新聞・雑誌」の 56.8%。「中古本・不要本の回収サービス」が 8.6%、「インターネット利用による情報サービス」が 30.8%で続く。

年代別では、20代は「図書・新聞・雑誌」が 75.0%と高く、10代と40代は「インターネット利用による情報サービス」、60代と70歳以上は「郷土資料」が高め。

中央図書館の利用目的との関連では、「館内で調べものをする」人で「郷土資料」と「レファレンス・レフェラルサービス」、「子どもに読み聞かせをする」人で「読み聞かせの会等のサービス」と「CD・DVD等の資料」が高いのが目立つ。

(ウ) 新しい中央図書館に充実させてほしい図書分野（複数回答）

最多は「文学」の 37.3%で、2番目に多かったのは「絵本」の 31.2%。以下「児童本」29.4%、「文化・芸術」27.5%、「自然科学」24.1%と続く。

男女別では、「文学」、「絵本」、「児童本」は女性の方が男性より 10ポイント以上高く、「技術・産業」は男性の方が高い。

年代別では、30代は「絵本」を 61.4%でトップに挙げ、50代は「文化・芸術」が 39.8%と高い。40代と50代は「文学」、30代と40代は「児童本」が高め。「マンガ」は10代と20代、「ライトノベル」は10代と20代、40代で高い。

(エ) 新しい中央図書館にあれば良いと思うもの

「飲食等の場」が 47.8%で最も多く、「郷土・文化・芸術資料の保存・公開の場」が 30.0%、「市民の交流の場」が 26.6%、「学習・趣味等の発表の場」が 21.4%、「市民の相談の場（教育・職業等）」が 16.8%で続く。

年代別では、10代～40代で「飲食等の場」が6割以上と高い。60代と70歳以上は「郷土・文化・芸術資料の保存・公開の場」と「市民の交流の場」が高め。

職業別では、会社員・公務員・団体勤務と学生は「飲食等の場」、その他は「郷土・文化・芸術資料の保存・公開の場」、パート・アルバイトは「市民の相談の場（教育・職業等）」が高め。

(2) 佐久市中央図書館建替再整備ワークショップ 市民ワークショップ

市民アンケートの結果を受け、4回にわたって「佐久市中央図書館建替再整備ワークショップ」(以下、市民ワークショップ)を行いました。

※ 各ワークショップの詳細な記録は、佐久市立図書館ホームページ「佐久市立中央図書館建替再整備について」のページに掲載しています。

<https://www.city.saku.nagano.jp/tosyo/chuouseiseibi.html>

ア 市民ワークショップの概要

佐久市広報誌「SAKU ライフ」でお知らせして募集した 20 人

場所 中央図書館視聴覚室

	開催日時 R4 (2022) 年度	参加人数	内容 (テーマ)
第 1 回	9 月 25 日 (日) 13 : 00 ~ 15 : 30	17 人	「中央図書館の課題について考えよう」
第 2 回	10 月 16 日 (日) 13 : 00 ~ 15 : 30	18 人	「新たな中央図書館の機能について考えよう」
第 3 回	11 月 27 日 (日) 13 : 00 ~ 15 : 30	13 人	「複合施設について考えよう」
第 4 回	12 月 18 日 (日) 13 : 00 ~ 15 : 30	18 人	「新たな中央図書館についてのまとめ」

※ 参加者は常に同じ。4 グループに分かれて話し合った。

イ 第1回市民ワークショップ「中央図書館の課題について考えよう」

現市立図書館の良い点、改善してほしい点、今後希望する点などについて意見を出し合いました。

施設	施設の狭さ、暗さ。話し合いやイベント、飲食できるスペースがない。一日中居られるスペース。魅力的なスペースのなさ。読書スペース、Wi-Fiの設備、館内のレイアウトの不具合。施設の有効利用を。車いすへの配慮を。明るいトイレを。備品の不備。駐車場が狭い。
資料・資料整備・	本を探しにくい。棚に本がいっぱい、詰めすぎ。蔵書が少ない。雑誌が少ない。選書、除籍基準の見直し。探究学習など展示コーナーを作って。地域資料の充実と紹介。
サービス	レファレンスサービスの充実、人の配置。読書サービス以外の各種支援。情報発信の重要性。
職員	調べ学習の場づくり、支援のできるスタッフ。接遇に配慮。サービス内容の職員全員の把握。
連携	学校図書館との連携、近隣市町村との連携。
その他	若い人の利用が少ない。

ウ 第2回市民ワークショップ「新たな中央図書館の機能について考えよう」

第1回の結果や先進事例を踏まえ、施設に備えたい機能について意見交換しました。

建物	明るく広い室内。中も外も明るく見通しの良い図書館。外の空間とつながって風を感じることもできる など
スペース	読書スペース、学習スペース、トイレ、飲食（反対意見もあり）、交流できる場（グループワーク、ボランティア活動）、各コーナー（佐久市に関する資料、ヤングアダルト向け、児童、幼児）、展示、イベント など
施設・設備	バリアフリー、高すぎない書架、乳幼児向け絵本架、各種設備（ミニシアター、自動貸出機、ポスト、ATM、コインロッカーなど多数） など
情報提供	お知らせ板、ホームページ、市政の情報、図書館情報 など
資料	郷土資料室、デジタル保存、雑誌の種類を多く など

エ 第3回市民ワークショップ「複合施設について考えよう」

先進事例を踏まえ、設備に備えたい機能について意見交換しました。

全館共通	<p>集会スペース、会議室、トイレの共有。</p> <p>相互に利用したことがない人が利用するきっかけになる。</p>
創造館・美術館	<p>相互に集客。文化的・芸術的雰囲気の醸成。施設とのコラボレーション。</p> <p>[問題点] 音楽活動の施設と同じ場合、音の問題、小さな団体が利用しにくい問題あり。美術館と同じ場合、収蔵スペースが膨大になる。</p>
文書館・郷土資料館・文化財・博物館	<p>地域資料の集中管理。資料提供、展示、情報提供などが充実する。</p> <p>旧町村の資料の散逸を防ぐ。公文書の保存。</p> <p>産業文化博物館。</p>
イベントホール	<p>講演会ホール。アニメミュージアム。アニメや漫画とのコラボスペース。映画上映。発表ステージ。</p>
年代別・課題を持つ人	<p>子育て支援・親子のスペース</p> <p>中高生の居場所。中高生向けの情報。相談につなぐ。</p> <p>医療情報サービス、法律情報サービス、企業支援、就業支援</p>
飲食スペース	<p>1日居られる。ゆっくりくつろげる。親子の居場所になる。</p>
行政機能等	<p>市の出張所、郵便局。</p>
商業施設	<p>ショッピングモール、スーパー、地域の物産の販売所、書店、古本レンタルスペース</p>
その他	<p>学習スペース、DX推進室など知的好奇心を刺激したり、情報発信の基地となるよう。データベースもたくさん導入。</p> <p>本に飽きても一日過ごせる場所、図書館の本を使って実体験できる場所。</p>

#### オ 第4回市民ワークショップ「新たな中央図書館についてのまとめ」

今までの市民ワークショップを経て、どのような新中央図書館を望んでいるか班ごとに考えをまとめました。

1班	<ul style="list-style-type: none"><li>• みんなの居場所、楽しめる図書館</li></ul>
2班	<ul style="list-style-type: none"><li>• 過去と未来を繋ぐ居心地のよいスペース</li></ul>
3班	<ul style="list-style-type: none"><li>• こまば文化の森 (必要な情報を利用者が探せるツールがそろっている場所、文化的なもの 知的な好奇心を刺激するものにふれあう場所)</li></ul>
4班	<ul style="list-style-type: none"><li>• 立地を生かし、佐久市のシンボルとなる。浅間山、八ヶ岳の展望ができる。</li><li>• 市民の課題解決のための相談。</li><li>• 地域資料を集めた資料館との複合施設。</li></ul>

#### (3) 図書館協議会委員の意見

令和5(2023)年10月5日(木)に行った令和5年度第1回 佐久市立図書館協議会において、中央図書館建替再整備に対して次のような意見が出されました。

- 以前、研修で文化財事務所内の考古遺物展示室を見学したが、大変面白く勉強になった。しかし、土日祝日休みの施設で、インターネット上の口コミにも惜しいという書き込みがあった。新しい図書館で、郷土資料などと一緒に展示できればと良いと思った。
- 複合化を考えてもらいたい。資金や場所などは限られているが、自由な発想で検討を進めてほしい。臼田文化センターにも考古的な資料や本が多数あるが、建物の老朽化が進んでいる。博物館的な図書館など、様々な工夫をしてほしい。
- 本を読みたい利用者だけでなく、本が苦手でも居られる場所があると良いと思う。他自治体の図書館には、カフェやレストランがあったり、近くにサウナがあって整う場所があったりと、良い意味で図書館らしくない部分がある。図書館はもちろん、その周りも充実させてほしい。

- 様々な制約がある中で難しい部分はあると思うが、せっかく作るなら、図書館だけではなくまちの魅力として作り上げてほしい。各地域の課題は、それぞれにあると思う。図書館は、本を読んだり借りたりするところというイメージだけを先行させず、何か困りごとがある時に頼れる図書館という受け口の広さがほしい。
- 県外の図書館を訪れる機会があった。利用者が、相当たくさん集まっており、主婦や中高年、学生、子どもなど、様々な世代の人が図書館を利用していた。新しい図書館も、同様に利用される図書館になると良いと思う。1日中本を読んで居られるスペースなど、様々なスペースがありうらやましく思った。本を借りるだけでなく、出かければ様々な情報や人に会える場所になると良いと感じた。

### 【まとめ】

複合化に関しては、文化財事務所内の考古遺物展示室や臼田文化センターの資料や図書を活かすことが提案されました。

また、図書館のあり方として、本を読みたい人だけでなく、様々な情報や人に会える、長時間滞在できる、まちの魅力となる図書館が要望されました。

- ※ 図書館協議会の記録の全文は、佐久市立図書館ホームページ「協議会・各種計画」に掲載しています。

<https://www.city.saku.nagano.jp/tosyo/kyougikai.files/kaigiroku1.pdf>

## (4) 利用者アンケート（資料）

### ア アンケート調査の概要

調査時期	令和5年10月1日（日）～10月22日（日）（3週間）
調査対象	期間中に佐久市立図書館を利用した方（任意）
調査方法	回収箱を館内に設置
有効回答数	86人 （男性31人、女性54人、無回答1人）

## イ 有効回答者の内訳

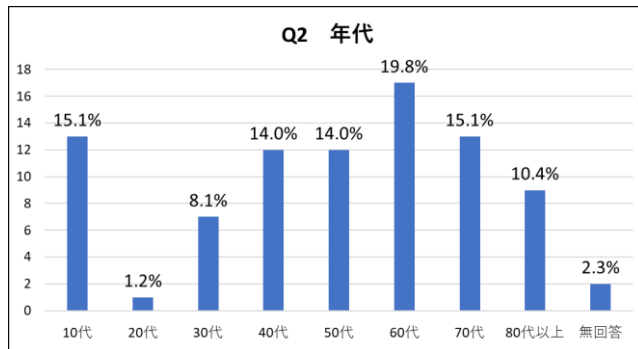


図 2-10 回答者の年代

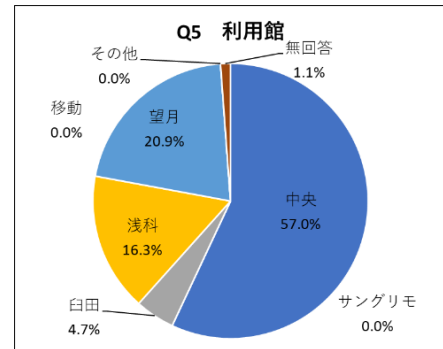


図 2-11 回答者の利用館

## ウ よく利用する図書館サービスについて

「本・雑誌を借りる」が76.7%と最も多く、次いで「検索機（OPAC）による検索をする」「佐久市立図書館ホームページを利用する」がともに29.1%、「本などの予約・リクエストをする」が27.9%、「本・雑誌・新聞などの閲覧をする」が23.3%の回答となった。

一方、「利用したことがない」と回答したサービスは、「点字・大活字・録音図書を借りる」が74.4%と最も多く、次いで「データベースを利用する」「視聴覚資料を利用する」が64.0%、「インターネットを利用する」が62.8%、「コピーサービスを利用する」が60.5%、「職員に調べ物などの相談をする」が58.1%、「催し物・講座などに参加する」が57.0%、「資料を利用した調査・研究をする」が52.3%と半数を超えている。

さらに、「データベースを利用する」については、「知らない」との回答が18.6%あった。

## エ 図書館の満足度について

### （ア）資料について

本の種類については「とても満足」24.4%、「どちらかといえば満足」34.9%と、約6割が満足している傾向にある。「普通」と回答した人は25.6%で、「どちらかといえば不満」8.1%、「とても不満」2.3%と、不満を感じている人は1割程度。雑誌・新聞については、「普通」と回答した人の割合が高く、雑誌31.4%、新聞34.9%だった。「どちらかといえば不満」雑誌8.1%・新聞1.2%、「とても不満」雑誌・新聞とも2.3%と、本に比べると満足度はやや下がるが、雑誌・新聞についても不満を感じている人は少ない。



視聴覚資料については、「わからない」と回答した人が50.0%と最も高く、あまり利用されていない傾向がうかがえる。

#### (イ) サービスについて

貸出冊数については、「とても満足」47.7%、「どちらかといえば満足」17.4%と、6割以上が満足と回答している。「どちらかといえば不満」3.5%、「とても不満」0%と、不満を感じている人は少ない。

インターネット予約については、「わからない」と回答した人が44.2%と最も多く、「とても満足」18.6%、「どちらかといえば満足」12.8%と、約3割は満足しているものの、利用していない人が多くいることがうかがえる。「どちらかといえば不満」0%、「とても不満」3.5%で不満を感じている人は少ない。

検索機（OPAC）については、「普通」30.2%が最も多く、「とても満足」16.3%、「どちらかといえば満足」11.6%で、3割程度は満足しているが、「どちらかといえば不満」10.5%、「とても不満」1.2%と、不満を感じている人も1割程度いる。

開館時間・閉館時間については、「普通」37.2%と回答した人が最も多く、「とても満足」26.7%、「どちらかといえば満足」17.4%で、「どちらかといえば不満」8.1%、「とても不満」2.3%となる。

読書通帳については、「わからない」と回答した人が40.7%と最も多く、次いで「とても満足」20.9%、「どちらかといえば満足」10.5%、「普通」17.4%と、約3割の人が満足と回答している。

企画展示、ブックスタート・セカンドブック事業、読み聞かせ講座・音読者養成講座等の研修、読み聞かせ・ミニ講座・図書館講座等の催し物、各種情報提供については、「わからない」との回答が最も多く、企画展示31.4%、ブックスタート・セカンドブック事業55.8%、読み聞かせ講座・音読者養成講座等の研修65.1%、読み聞かせ・ミニ講座・図書館講座等の催し物54.7%、各種情報提供39.5%が「わからない」としている。

#### (ウ) 施設について

施設そのものについては、「とても満足」32.6%、「どちらかといえば満足」15.1%、「普通」31.4%となり、5割近い方が満足としている。「どちらかといえば不満」12.8%、「とても不満」4.7%である。

冷暖房・空調・照明についても、「どちらかといえば不満」12.8%、「とても不満」1.2%で、ほとんどの方は満足もしくは普通としている。

座席数、館内表示案内については、「普通」とした人が3割以上と最も多く、次いで「とても満足」が座席数 31.4%、館内表示案内 29.1%、「どちらかといえば満足」が座席数 15.1%、館内表示案内 19.8%で、ほとんどの方は満足もしくは普通としている。

インターネット環境については、「わからない」と回答した人が 31.4%、「とても満足」15.1%、「どちらかといえば満足」12.8%、「普通」19.8%となっているが、「どちらかといえば不満」10.5%、「とても不満」4.7%と回答している人もいる。

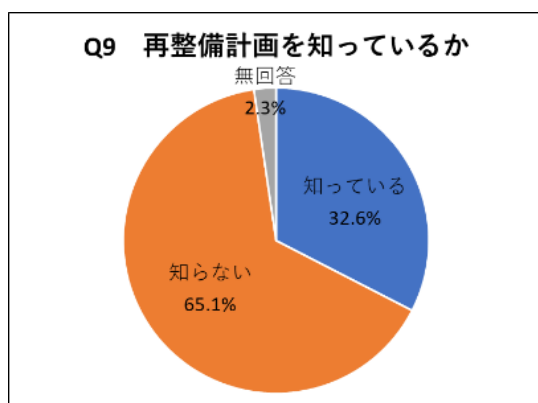
#### (エ) 職員について

職員の態度については、「とても満足」39.5%、「どちらかといえば満足」36.0%と、多くの方に満足していただいている。職員の資料に対する知識についても「とても満足」18.6%、「どちらかといえば満足」24.4%と満足度は高いが、「わからない」と回答した人も 33.7%いる。

#### オ 図書館のお知らせはどこで見るか（複数回答）

「館内掲示」が 38.6%と最も多く、次いで「ホームページ」24.6%、「広報佐久」21.9%と続く。

#### カ 中央図書館再整備計画について



「知らない」65.1%と回答した人が、「知っている」32.6%を大きく上回っている。

図 2-12 再整備計画の認知度

#### キ 新しい図書館に充実させてほしいスペースについて（複数回答）

「ゆっくり読書できるスペース」が 26.1%で最も多く、「集中して勉強できるスペース」「のんびり休憩できるスペース」がともに 15.1%、「持ち込みタブレット等利用可能スペース」が 8.5%、「イベント・集会等のできる多目的スペース」が 8.0%、「乳幼児に対応したスペース」が 7.0%、「CD・DVD が視聴できるスペース」が 5.0%と続く。

ク 新しい図書館に充実させてほしいサービスについて（複数回答）

「図書・新聞・雑誌」が 24.4%で最も多く、「中古本・不要本の回収サービス」が 13.4%、「インターネット利用による情報サービス」が 8.8%、「CD・DVD 等の資料」「郷土資料」「読み聞かせの会等のサービス」がともに 6.0%、「障がい者へのサービス」が 5.5%、「講演会・展示会等の開催」が 5.1%、「健康医療情報サービス」が 4.6%、「情報格差解消のための学習サービス」「移動図書館サービス」がともに 4.1%と続く。

ケ 新しい図書館に充実させてほしい図書分野について

「文学」が 12.9%と最も多く、「自然科学」「文化・芸術」がともに 10.9%、「児童書」「絵本」がともに 9.5%、「哲学・歴史」「マンガ」がともに 8.0%、「技術・産業」が 7.0%、「社会科学」が 6.5%、「ライトノベル」3.5%、「言語」が 2.5%と続く。

コ 新しい図書館があればよいと思うものについて（複数回答）

「飲食等の場」が 31.4%と最も多く、「市民の交流の場」が 16.4%、「郷土・文化・芸術資料の保存・公開の場」が 11.4%、「学習・趣味等の発表の場」「市民の相談の場」がともに 7.9%と続く。

(5) ボランティアグループとの懇談会

佐久市立図書館（全館）で活動しているボランティアグループとの懇談会を実施しました。

※ ボランティアグループとの懇談会の記録は、佐久市立図書館ホームページ「佐久市立中央図書館建替再整備について」のページに掲載しています。

<https://www.city.saku.nagano.jp/tosyo/chuousaiseibi.html>

ア 懇談会の概要

目的	図書館とボランティアグループとの相互理解・情報交換 図書館の現状や今後の計画について知っていただくこと ボランティアグループ同士の相互理解、情報交換
実施日	令和 5 年 10 月 8 日（日） 13：30～ 15：30 令和 5 年 10 月 15 日（日） 13：30～ 15：30 令和 5 年 10 月 26 日（木） 13：30～ 15：30

出席グループ	11 グループ 16 名 あかりの会（語り）、ザ・フレンズ（朗読）、おしゃべりたまごの会（読み聞かせ）、子どもの本の会（学習、読み聞かせ）、おはなし玉手箱（読み聞かせ）、音の会（音訳テープ作成）、チームとしょかんの風（図書館ボランティア）、賢治を読む会（学習）、図書館友の会（学習）、中山道史友会（学習）
内容	(1) 事務局説明 <ul style="list-style-type: none"> <li>佐久市立図書館の現状について</li> <li>中央図書館建替再整備の進捗状況について</li> </ul> (2) 懇談 <p>※ 3回とも同じ内容で実施した</p>

#### イ 意見等

場所について	駒場公園内、佐久平駅周辺など。現地建替は、閉館期間が長くなるので避けてほしい。現地建替、駒場公園内の場合、交通手段を講じる必要がある。
施設について	新しい図書館機能に対応できるスペースの確保。半世紀先までの蔵書が入るスペース。ボランティアグループが活動できる複数の部屋。飲食可のスペース。バリアフリーの施設。居心地の良さ。等
複合施設について	文書館、博物館、体育館、創造館。公民館とは違うレベルのもの。
運営	図書館を知らない人も利用できるよう。職員研修の重要性。図書館の広報活動の強化。等
中央図書館の機能	5館の中心。中央の機能を持たせて分館を充実させる方法もあり。
その他	新図書館は図書館だけの問題ではなく、佐久市全体の問題。佐久市が誇れる施設に。文化の拠点に。若い世代に関心をもってもらい意見を反映できるよう。若い人が住みたいと思えるような。佐久地域の中核としての役割。

## 4 課題の整理

### (1) 全域サービス

全域サービスは、中央図書館を含む 5 館と移動図書館車の巡行によってほぼ実現しています。今後は、さらに細かく各地域の実情を知るとともに、来館に不自由な人のニーズを把握していく必要があります。

市町村合併で新佐久市が誕生して 20 年になります。今後は、中央図書館としての役割を明確にするとともに、各館の役割や運営体制について、あらためて整理しておく必要があります。

### (2) 施設面における課題

現在の建物は、市民アンケートで「少し狭い」「狭い」が 44.5%、30 代 40 代で「狭い」「少し狭い」が半数を超えています。市民ワークショップでも狭さ、暗さが指摘されています。実際に日本図書館協会の数値基準では、旧佐久地域の住民 71,417 人の図書館の延床面積は 3,804 m<sup>2</sup>必要となります。これは、現在の中央図書館の 2 倍以上の広さです。

新しい図書館の施設について、市民アンケートでは、飲食等の場、市民交流の場、学習・趣味等の発表の場、といった従来の図書館にはない「場としての図書館」が求められています。また市民ワークショップでも、「みんなの居場所楽しめる図書館」「バリアフリーでゆったりくつろげるスペース」「利用者同士の交流ができる」など、場所についての要望が出されています。

図書館の資料の利用だけに限定されない、居心地のよい「場としての図書館」は、デジタル化が進んで来館しなくても用が足りる時代になれば、より強く求められるものになると思われます。

### (3) 利用における課題

佐久市立図書館の利用登録率は 6 割近くです。このなかには市外や県外の人も含まれますが、少なくとも市民の半数以上の人には図書館を認知しているといえます。ただし、貸出を利用している人は、1 割です（ほかに貸出は利用しながいが、雑誌や新聞を読んだり、学習室を利用したりする人は一定数います）。佐久市立図書館は、登録率が高いわりには日常的に図書館を利用している人が少ないといえます。

市民アンケートでも、過去に数回利用しただけの人は 30.4%、年に数回程度が 20.8%と、一度は図書館に足を運んだことのある人が多いことがわかります。図書館をもっと頻繁に利用していただけるよう、施設面や運営上の魅力が求められます。

#### (4) 資料整備・蔵書における課題

市民アンケートで充実させてほしい図書分野は、「文学」37.8%、「絵本」31.2%、「児童書」29.4%、「文化・芸術」27.5%、自然科学24.1%です。利用者アンケートでも一番多いのは「文学」12.9%、つづいて「自然科学」「文化・芸術」「児童書」「絵本」と続きます。

文学と絵本、児童書のニーズは高いですが、そのほかの分野も求められています。

市民アンケートでは、「図書・新聞・雑誌」を充実させてほしいという要望が56.8%と高く、特に20代では75%となっています。10代から20代の図書館利用者が少ないのも、この世代のニーズに、現在の「図書・新聞・雑誌」が応えられていない原因の一つと考えられます。

ヤングアダルト向けの資料、視聴覚資料、多言語資料、マンガなどの点数が少なく、多様な種類、多様なメディアの収集にも課題があります。

#### (5) サービス面における課題

よく利用されているサービスは、「貸出」が一番多く、市民アンケートでは中央図書館を利用している人の66.8%が貸出を利用目的にあげています。利用者アンケートでも全回答者の76.7%がよく利用するサービスとしてあげています。図書館としても貸出に努力している結果、全国と同規模自治体（8万人以上10万人未満の市区）のなかで館外貸出数は14位となっています<sup>4</sup>。

市民アンケートや利用者アンケートの回答では、利用しているサービスとして、そのほかに図書・雑誌・新聞等の「閲覧」「検索」「ホームページ閲覧」が続きますが、いずれも10%~20%代の利用です。

市民ワークショップで意見が出されたように、レファレンスサービス、読書サービス以外の各種支援、情報発信は充分に行われていません。そのため利用者アンケートでは、「データベースを利用する」「視聴覚資料を利用する」「インターネットを利用する」「コピーサービスを利用する」「職員に調べ物などの相談をする」「催し物・講座などに参加する」「資料を利用した調査・研究をする」などは、いずれも半数以上の人利用したことがないと回答しています。

今後は、引き続き貸出に力を注ぐとともに、それ以外のサービスにもしっかりと取り組む必要があります。

---

<sup>4</sup> 『図書館年鑑 2023』日本図書館協会図書館年鑑編集委員会編，日本図書館協会，2023，p 286.

## (6) 運営面における課題

### ア 中央館と各館の在り方

市町村合併後 20 年になりますが、中央館の役割と分館・地域館の役割が明確になっていません。この建替の機会に、検討する必要があります。

また、運営面では、合併時に選書や整理基準のすり合わせを充分に行わないまま現在に至っているという問題があります。

現在、選書は各館がそれぞれ担当していますが、今後は中央館と地域館の役割を明確にして、選書方針、選書基準、選書方法を見直していく必要があります。

また、図書の整理基準（ラベルのつけ方等）も館によって異なります。郷土資料については書誌データ（目録の内容）が違うのは好ましくありません。統一した整理基準が必要です。その他の資料については、見直しが必要かどうかも含めて検討する必要があります。

### イ 職員

サービス面の課題でも触れましたように、佐久市立図書館は貸出に力をいれていますが、それ以外のサービスは充分ではありません。一因にそのための体制が整っていないことがあげられます。

職員について飯田市、塩尻市と比べると、職員数は塩尻市 65 人、飯田市 44.1 人に対して、佐久市は 43 人です。住民 1 万人あたりの職員数は、塩尻市 9.8 人、飯田市 4.6 人に対して、佐久市は 4.4 人です。いずれも佐久市が一番低くなっています。ただし、飯田市と比べるとそれほど大きな差はありません。しかし、司書率に関しては、両市と比べて歴然とした差があります。塩尻市 63.1%、飯田市 63.3%、佐久市 39.5%です。

各種図書館サービスを計画し実行するには、図書館の知識があり、自ら研修を行うことができる司書職員を一定数確保する必要があります。

## (7) 財政面における課題

令和 4 年度の『長野県公共図書館概況』によると、住民 1 人当たりの図書費は、塩尻市 417 円、飯田市 281 円、佐久市 215 円です。ここでも、塩尻市が多く、佐久市が一番少なくなっています。全県の平均は 223 円ですから、佐久市の図書費は全県の平均にも達していないことがわかります。

図書館費にも大きな差があります。佐久市は、当初予算、教育費、社会教育費についてはいずれも飯田市、塩尻市よりも多いのですが、図書館費は低いです。住民 1 人当たりの図書館費は、塩尻市 3374.6 円、飯田市 1238.4 円、佐久市 995.5 円です。

佐久市は、図書館費そのものも両市よりも少なくなっています。佐久市は、市の歳出予算、教育費、社会教育費に対して、図書館に対する費用が大変小さいといえます。図書館活動を活発にするには、今よりも大幅な財政措置が求められます。



## 第3章 中央図書館の役割と機能

### 1 中央図書館の役割、その経緯

平成17(2005)年に新佐久市が誕生したとき、合併前の各市町村には、1館ずつ図書館がありました。

平成16(2004)年8月23日付けの「合併協定書」では、「図書館管理運営事業は、4市町村の図書館の個性を尊重しながら、現行どおりとし、合併後、住民サービスに主体を置いたネットワーク化を図る」<sup>5</sup>としています。合併時には、旧佐久市立図書館を含めた4つの図書館は、並列の関係にあったことがわかります。

しかし、現在は旧佐久市図書館が中央館の役割を担っています。コンピュータシステムによるネットワークが運用されるようになった2年後には、旧佐久市立図書館は中央館の位置づけになっていることから、この時期に中央図書館としての位置づけが定まったものと推測されます。

図書館のネットワーク構築により、利便性が高まりました。利用できる資料が増えたことに加えて、利用者の都合に合わせて利用する図書館を選ぶことができるようになったからです。また、市外周辺地域からの利用も増えています。ただし、地域館に関しては、地域に根づいたサービスが、合併後に弱まったという声も聞かれます。佐久市が広域になったことのメリットを活かすとともに、各地域に図書館があることの意義を活かした活動をしていく必要があります。

### 2 中央図書館の機能

#### (1) サービス対象地域

中央図書館がサービス対象とするのは、市域全体と旧佐久市域です。

#### ア 全域サービスの統括、責任

市内のどこに住んでいても、図書館のサービスが受けられるよう、全域サービス網を行き渡らせてそのスムーズな運用をはかります。

基本的には、分館・地域館がそれぞれの地域のサービスを担当します。中央図書館は、移動図書館のステーションの見直しや施設入居者、健康状態等の事由で自宅から出られない人へサービス等は、全館の調整をはかりながら計画を立て、実現に向けて取り組みます。

---

<sup>5</sup> 「合併協定書」佐久市・臼田町・浅科村・望月町、2004.8.23、Ⅲその他の事項 28 各種事務事業の取り扱い 28-6 教育関係 (3) 社会教育関係事業の取り扱い⑥。

## イ 旧佐久市域へのサービス

中央図書館は、旧佐久市域に対してもサービス対象とする役割があることを念頭においておく必要があります。

旧佐久市は、1961（昭和 36）年、浅間町、東村、野沢町、中込町の 4 町村が合併して誕生しました。合併から 50 年以上経ている今、旧町村単位である地区意識がどの程度存続しているか不明ですが、図書館に対するニーズを把握するよう努めます。

移動図書館が巡回している全 7 コースのうち 6 コースは旧佐久市内です。旧佐久市では、図書館の分館・分室を設置するかわりに移動図書館を運行してきました。今後も移動図書館の運行は続けますが、併せて固定的な場所の設置が必要かどうかについても検討していきます。

## (2) 図書館運営

### ア 図書館運営の統括、代表、責任、連絡、調整

中央図書館は、佐久市立図書館全体の運営計画、計画の実施、報告、記録に関わります。佐久市立の図書館として、代表を務めること、責任をもつことも中央図書館の役割です。これらに伴う庶務的なことから、できるだけ一元的に取り扱い、合理化を図ります。

ただし、中央図書館が全部を担うということではなく、必要に応じて分館・地域館も分担します。

中央図書館は、佐久市内の図書館間の連絡・調整・会議の開催を行います。情報を共有し、互いの図書館の状況を理解しながら、共同でよりよい図書館のあり方を進めていきます。

### イ 図書館システムの検討、デジタル化の推進

図書館システムの検討や図書館資料のデジタル化は、佐久市立図書館全体に関わる業務です。中央図書館が中心になって進めていきますが、利用者の最前線にいる分館・地域館の事情を聞きながら共に検討し、よりよい選択をするよう努めます。

## (3) 図書館サービス

### ア サービス計画

佐久市全体の図書館サービス計画は、中央図書館が中心となってまとめます。

図書館サービスに取り組むのは各館ですが、中央図書館は、情報を共有したり、連携したりしながら、相乗効果があげられるよう各館の中心になって調整します。

#### イ レファレンス

レファレンスはどの館でも対応できるようにします。また、各館の地域に関わることは、各館で応えられるようにします。

また、多様な利用目的・利用者層のレファレンスに応えるための体制づくりを中央図書館が担います。

体制づくりとして、次のようなことが必要です。

- 調べものに役立つ資料・情報の収集、発見、自館資料の作成を積極的に行う。
- 研修による職員の専門性のアップを図る。中央図書館職員の研修、及び分館・地域館を含めた職員の研修計画を立案し、実行する。
- レファレンスを記録し、回答の仕方を検討してよりよいサービスにつなげる。レファレンスサービスの紹介や回答事例を発信して、レファレンスサービスの認知に努める。

なお、レファレンスに役立つ資料群・情報については、地域資料・行政資料の収集を積極的に行うとともに、収集もれを最小限にするための収集体制の見直しも必要です。

#### ウ 広報・発信型情報サービス

広報・発信型情報サービスは、各館とも重要なサービスです。

中央図書館は、佐久市立図書館全体に関わること及び中央図書館に関わることを発信します。また、各館が発信している情報を把握し、共有します。

#### エ 事業

催し物、各種講座等は、中央図書館、及び各館で企画し、実施します。

### (4) 資料・資料保存

#### ア 蔵書構築

中央図書館は、幅広い年齢層や多様な目的をもった人の利用に応えられるよう、幅広いジャンルの資料、多様なメディアを収集します。

佐久市立図書館として、全体の資料収集の計画が必要です。計画は、中央図書館やそれぞれの分館・地域館の実情や利用状況をふまえて作成します。この計画は、必要に応じて見直しをします。

## イ 保存

資料の保存は、原則として中央図書館が担います。

分館のサングリモ中込図書館は一時的な資料の保存場所として書庫を持ちますが、保存するのは自館に関わる記録のみです。地域館は、サービス対象とする地域の資料を保存します。そのほかの資料は、原則として中央図書館に集めます。

郷土資料は、複数保存するようにするか、デジタルアーカイブ化するなど、保存方法について検討します。

## ウ 地域資料の扱い

中央図書館は、地域資料を積極的に収集・保存・提供するとともに、図書以外のパンフレットやちらし、各種情報も整理して提供するように努めます。

地域館は、地域の資料の収集・保存・提供をします。

中央図書館は、自館が所蔵していない博物資料や古文書などについても、各関係機関と連絡をとって、所蔵場所や書誌情報等のデータを整え、アクセスの手段を講じるよう努めます。その際、地域の類縁施設については、地域図書館と連絡をとり、協力してデータ作成、活用に取り組みます。

## エ 資料のデジタル化

地域資料のデジタル化と提供については、中央図書館が計画立案・予算措置・実施を行います。

著作権に抵触しない希少な地域資料については、他機関の所属調査を行ったうえで、デジタルアーカイブ化を進めていくことが望まれます。

デジタル化をする地域資料の選定は、各館でも行います。

令和5(2023)年度は、明治末から昭和16年まで発行された「信濃佐久新聞(中信毎日新聞)」のデジタル化を行っています。今後、前年度にデジタル化した分を合わせて、資料の公開を進めていく予定です。

## オ 特別文庫

中央図書館には、山室文庫、相馬文庫、原野文庫があります。これらの文庫は、引き続き中央図書館が保存して閲覧できるようにします。

現在整理中の井出孫六(いでまごろく)氏の資料について 井出孫六氏は白田出身で白田に関係が深いことから、白田図書館で所蔵することを検討しています。ただし、白田図書館の床面積が限られていることから常設的な展示は困難です。どういう形の保存、展示が望ましいか、今後検討が必要です。

表 3-1 佐久市立図書館の特別文庫

文庫名	文庫の紹介	数量
山室文庫	山室静(やまむろ しずか)氏は、文芸評論家、翻訳家。7歳から旧制中学校を佐久市岩村田で過ごし、地元の野沢高等女学校の教師をした。生前から寄贈を受けた。著書、所蔵本(文芸書、詩集、児童書その他)など	9,574 冊
相馬文庫	相馬遷子(そうま せんし)氏は、佐久市出身の俳人、医師。「馬酔木」同人。相馬氏が所蔵していた個人句集や俳句・俳諧の書籍等が寄贈された。	991 冊
原野文庫	図書館入口に航空図書室の看板を掲げている。原野宣喜(はらの のぶよし)氏の寄贈による航空関係資料多数。	雑誌、図書等 12,935 冊 飛行機模型もある
井出孫六氏資料	現在整理中。臼田出身の直木賞作家井出氏孫六の原稿や、執筆時に使用した資料がある。	著作 47 冊 資料一式

#### (5) 施設

新しい中央図書館には、資料を排架するスペースや資料保存の書庫のほかに、多様なスペースが求められています。可能な限り、求められている機能を実現できる施設を目指します。

一方、分館・地域館はスペースが限られていますので、提供できる場には限界があります。しかし、「居心地のよい場づくり」等、面積に関わりなく実現できることは、積極的に取り組むようにします。

#### (6) 他機関との連携、図書館間連絡の役割

##### ア 公民館、図書館類縁施設等の社会教育施設との連携・連絡

他機関や他の自治体の図書館間にかかわる全体的なことは、中央図書館が行います。必要があれば、分館・地域館が協力します。

地域に関わることは、地域の図書館が参加し、佐久市立図書館内で情報を共有します。必要があれば、中央館、他の地域館が協力します。

令和5(2023)年度は、佐久市社会教育部文化振興課による主催で市内社会教育施設の館長会が2回開催されました。社会教育施設において、連携の必要性の認識は徐々に高まっています。

令和 5（2023）年度は、前年度からの計画で、図書館、公民館、美術館の 3 館連携の取り組みを行いました。子ども公民館（親子が 3 館を訪問して学ぶ）、図書館スマホ講座への公民館職員の参加、美術館のミニ講座への図書館利用者の参加などです。

令和 6（2024）年度は、望月地区にある社会教育施設 4 館（望月公民館、望月歴史民俗資料館、天来記念館、望月図書館）で連携する企画が進んでいます。

#### イ 学校等との連携、保育園、児童館への支援

学校との連携や学校図書館支援の計画立案は、中央図書館が行います。学校教育課や学校司書会等と連携し、学校連携・学校図書館支援を進めていきます。

白田図書館、浅科図書館、望月図書館の地域には、小中学校が 1 校ずつあります。各地域館は、日ごろから司書や司書教諭と情報を交換し、支援を行います。

保育園、児童館への絵本・児童書の提供は、各館で行います。

#### ウ 近隣自治体の図書館間の連携

近隣自治体の図書館間の連絡や連携は、中央図書館が担当します。

令和 5（2023）年、図書館協議会で商用データベースを近隣自治体の図書館と共同で契約できないかという提案がされました。また、近隣自治体間の図書館におけるネットワーク構築の要望もあることから、検討していく必要があります。

#### ■ 佐久地域定住自立圏について

佐久圏域では、佐久市が中心市となり、近隣の市町村（小諸市、東御市、北佐久郡、南佐久郡）と連携して「佐久地域定住自立圏」を形成しています。取り組みは、平成 24（2012）年度からはじめており、現在は「第三次佐久地域定住自立圏共生ビジョン」（令和 4 年～令和 8 年）に基づき事業が行われています。

社会教育に関しては、「文化・スポーツ施設等相互活用促進事業」があります。概要は、「関係市町村の文化・スポーツ施設に関する情報を集約し、ホームページ等により情報発信するほか、施設の相互活用方法について検討する」と記されています。

なお、県下下伊那地域では、飯田市が「南信州定住自立圏共生ビジョン」を策定、この一環として図書館ネットワークシステムを構築・運用しています。

#### ■ 近隣の図書館、図書館職員の交流

佐久地区の公的な組織として長野県図書館協会佐久支部があります。佐久・小諸、南北佐久地域の学校図書館、公共図書館が会員です。学校図書館の会員が多いことから、学校図書館を中心とした活動内容になっています。

公共図書館関係者の連絡・交流は、同支部の正式な下部組織ではありませんが、佐久地域公共図書館運営協議会として、年に数回、会合を行っています。

### 3 地域館の役割と中央図書館の関係

#### (1) 地域館の役割

臼田図書館、浅科図書館、望月図書館は、それぞれ図書館が設置された経緯や施設の規模が異なります。地域で求められて設置された図書館として、地域のよりどころとなる図書館をめざします。

また、臼田図書館、浅科図書館、望月図書館は、佐久市立図書館の全域サービスの中軸として、サングリモ中込図書館は全域サービスの中継地として、佐久市立図書館の全域サービスの一翼を担います。互いに情報を共有し、協力し合いながら佐久市立図書館全体の図書館サービスに携わります。

#### (2) 各館の沿革・特徴等

表 3-2 佐久市の分館・地域館の沿革・特徴ほか

<p>サングリモ中込図書館</p>	<p><b>【沿革】</b> 平成 20 (2008) 年、複合型公共施設「サングリモ中込」2 階にミニ図書館として開館した。中央図書館の分館の位置づけ。3 階から 6 階は市営住宅になっている。</p> <p><b>【サングリモ中込図書館の改修】</b></p> <p>中込グリーンモールのにぎわい創出のために、令和 7 (2025) 年、現在の 2 階から 1 階に移動して開館する予定。面積は約 2 倍広くなる。にぎわいの創出に関与できるよう、活発な図書館活動を行うよう努める。主な利用対象者は、乳幼児とその保護者、中高生、シニアを想定している。</p>
<p>臼田図書館</p>	<p><b>【沿革】</b> 昭和 47 (1972) 年、臼田福祉センターの公民館内に図書室を設ける。平成 3 (1991) 年、町立図書館開館。</p> <p><b>【特色】</b> 佐久市コスモホールの建物内にある。合併前の臼田町が「星の町うすだ」として町おこしに取り組んでいた経緯があり、スタードームとの連携や宇宙関連資料の収集を行っている。また、旧町内に佐久総合病院があるので、医療関係、看護関係の資料も収集するようにしている。</p>

	<p><b>【類縁施設】</b> 天体観測施設（うすだスタードーム）、龍岡城跡お台所（函館と並んで日本で2つしかない星型の城郭に残された建物。資料展示あり）、川村吾蔵記念館（臼田町出身の彫刻家を記念）、臼田文化センター（遺跡資料ほか展示）。</p>
浅科図書館	<p><b>【沿革】</b> 平成元（1989）年、公民館図書室として開設された。平成4（1992）年、浅科村図書館が開館。平成14（2002）年、文化交流館が建設される際、交流館との合築と図書館の増築が行われた。</p> <p><b>【特色】</b> 木造平屋建て。高い天井とカラマツの板をふんだんに使った建物。小高い丘に設置され、眺望も考えられている。</p> <p>地域住民の憩いの場としての利用も想定されている。</p> <p>猫の本のコレクションあり。</p> <p><b>【類縁施設】</b> 五郎兵衛記念館。（市川）五郎兵衛は、江戸初期に用水を開削して新田を開発した。展示のほか、五郎兵衛新田村に関する古文書3万点、周辺地域の古文書3万点を収蔵している。</p>
望月図書館	<p><b>【沿革】</b> 昭和44（1969）年、望月町福祉センター内の一室に図書室が設けられた。平成7（1995）年、元スーパーの建物を全面改装して「望月町ふる里ふれあい図書館」が開館した。平成25（2013）老朽化のため、佐久市望月支所（元望月町役場）に移転開館した。</p> <p><b>【特色】</b> 開館記念行事「望月の光と風と緑 読書に心地よい椅子コンテスト」が開催された。入賞した創作椅子が館内で利用できる。</p> <p>書道と駒（馬）、中山道等、地域の特色に沿った資料を充実させている。</p> <p><b>【類縁施設】</b> 天来記念館（書道家比田井天来の顕彰）と望月歴史民俗資料館が近接している。</p>

### （3） 担うことができるサービス

#### ア 新中央図書館、新サングリモ中込図書館と地域館

新しい中央図書館がサービスをはじめたとき、各館がどのようなサービスを提供できるか表にしました（表3-3）。

臼田図書館は、延床面積が限られているため、できるサービスが限られてきます。浅科図書館と望月図書館の場合、面積はありますが、他の条件が整っていません。今後、何らかの方法で解消する方策がとれないか、検討していきます。



表 3-3 佐久市内の図書館が提供する図書館サービス

	中央 (新)	サングリ モ (新)	白田	浅科	望月
読む・閲覧する	◎	○	○	○	○
調べものをする	◎	△	○	○	○
専門的な職員から支援を得て調べる	◎	○	○	○	○
交流する／グループで学習する	◎	○	△	○	○
長時間滞在する（近くにくつろぐスペース・軽食できるコーナーがあること）	◎	○	△	△	△
学習する	◎	○	△	○	○
図書館のイベント等に参加する	◎	○	○	○	○

◎充分可能      ○ 可能      △ 可能だが充分ではない

イ 視聴覚資料の提供（検討事項）

現在、視聴覚資料の提供は、どの館も充分ではありません。

現状は以下のとおりです。

表 3-4 視聴覚資料提供の現状

	中央	サングリ モ	白田	浅科	望月
視聴覚資料を利用する	△	×	×	△	△

○ 可能      △ 可能だが充分ではない      ×できない

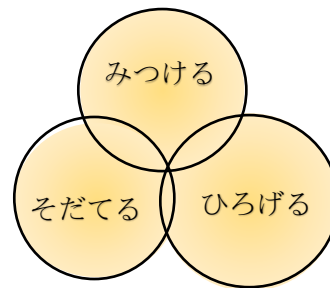
多様な図書館資料を提供する観点からは、CD、DVD などの視聴覚資料の提供も必要です。

また、今後は、音源配信サービスの導入も考えられることから、中央図書館の再整備にあたっては、図書館全体としてどういう提供の仕方がよいか、考える必要があります。

## 第4章 佐久市立図書館の基本方針

### 1 基本方針

みつける・そだてる・ひろげる



#### 6つの方針

##### (1) 図書館は知へのとびら 知りたいことがわかる 新しいことがみつかる

図書館は、新しいこと、知りたいことに触れることができる知へのとびらです。読みたい本、知りたい情報のある皆さんに、誠実に資料と情報サービスを提供します。

図書館は、新しいことに出会える場でもあります。出会いから広い世界の扉が開きます。出会いの機会がふえるよう、図書館資料を選択・収集し、いろいろな情報を整理して発信していきます。

##### (2) 図書館は佐久市の情報のよりどころ 佐久市の魅力に出会える 佐久市の魅力を発信する

図書館は、佐久市の情報のよりどころです。佐久市に関する資料や情報を積極的に収集して整理し、提供していきます。

図書館で出会った佐久市の魅力は、身近な人や市外の人に知っていただき、未来の佐久市の人たちにも伝え残していきたいものです。図書館は、その活動を支援します。

##### (3) 図書館は生きる力を育む場 自分のペースで学ぶ 自分で自分を育てる

図書館は、生きる力を育む場です。興味のあること、関心をもったことを深く学ぶことができます。図書館は、学ぶ資料を用意し、学ぶ機会、学ぶ場を提供します。自分のペースで学んでください。

生きる力は、読書や様々な情報、講座、人との出会い、イベント、によって培われます。図書館は、未来を担う子どもたちが自分を育てていくために必要な力を養う手助けをします。子ども読書活動の推進もその一つです。

##### (4) 図書館はともに育つ場 だれもが等しく学びあえる 立場の違いをこえてつながる

図書館は、だれもが利用できる場です。図書館は、市民のだれもがいつも等しく資料・情報にアクセスできる態勢をつくれます。

市民は図書館のオーナーです。図書館を育てるのは市民です。図書館は、市民と図書館とが相互にかかわりあうことによって育てられます。

#### **(5) 図書館は出会いの広場 新しい交流が始まる まちの文化が生まれる**

図書館は、人と人が出会える場です。そこから新しい交流が始まります。交流は、新しいコミュニティにつながります。

人と人との交流は、豊かな文化の土壌です。図書館は、文化の生まれる揺籃（ゆりかご）となります。

#### **(6) 図書館はわたしの居場所 わたしたちの居場所 わたしたち佐久市民の誇り**

図書館は、だれもが心地よく過ごすことのできる場です。そこに居るだけで気持ちのよい場を提供します。

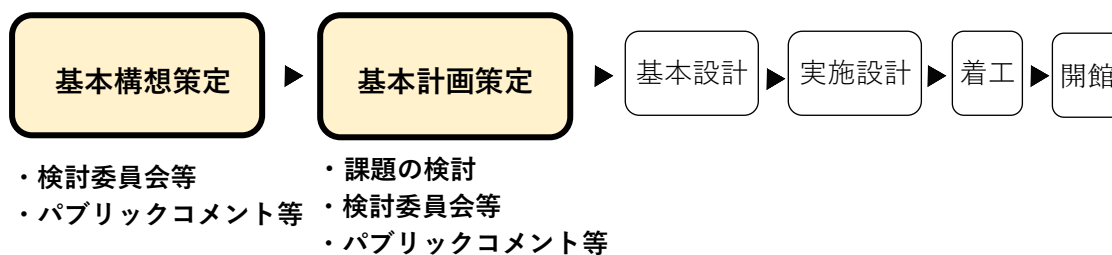
図書館は、みんなの居場所、活動の中心です。佐久市民の誇りが息づく図書館を目指します。

## 第5章 基本計画策定までの計画

### 1 今後のスケジュール

#### (1) 事業スケジュール

本基本構想を具体化するための基本計画の策定に向けて、次の「2 実現に向けた課題の整理」で掲げた課題について検討を進めます。



### 2 実現に向けた課題の整理

#### (1) 図書館建設予定地についての考え方

新図書館の建設場所については、次のような観点をふまえて検討します。

##### ア 現地建替

現在の敷地に建てる場合、建設期間中は、蔵書の保管場所の確保が必要になり、臨時の仮設図書館設置も検討する必要があります。現地建替は閉館する期間が長くなるという課題もあります。

##### イ 現地以外の駒場公園内

多くの社会教育施設が集積している自然豊かな駒場公園内の運営が望ましいですが、公園内の他施設との調整が必要です。

図書館へのアクセスに関しては、駒場公園はJR小海線の北中込駅から1 km以内にあり、市内のなかでは比較的アクセスしやすい位置にあります。しかし、小海線の運行本数が少ないこと、他地区からの交通手段がないことから、何らかの交通手段を講じることが求められます。

#### ウ 佐久平駅周辺

佐久平駅周辺は、新幹線と小海線の駅があり、市内では一番交通の便の良い場所といえます。周辺では商業施設や住宅の開発も進み、人口も増えています。市外からのアクセスも良好です。

ここでは土地の確保、とりわけ駐車場の確保が大きな課題になります。

#### エ その他

上記以外の新たな候補地を検討する際には、駐車場を含めた敷地面積の確保、建設予定地へのアクセスのしやすさ、周辺の環境等から考えていく必要があります。

### (2) 複合施設の候補

複合施設の候補として次のような建物・機能が考えられています。

#### ア 佐久市立近代美術館

佐久市立近代美術館は、中央図書館と同じ駒場公園内にあります。この美術館は、本市出身の油井一二氏寄贈の美術品をもとに建設されたもので、油井一二記念館の別名がついています。収蔵品の展示のほか、定期的に企画展等を実施しています。

建物は、3階建てで、延床面積は3,704.22㎡です。

佐久市個別施設計画では、施設の劣化状況を踏まえ、令和9年度から令和18年度の期間内を目途に長寿命化を行うとしていますが、周辺施設の動向も注視し、他の施設との複合化の検討も行うとしています。

#### イ 考古遺物展示室

考古遺物展示室は、市役所から徒歩5分のところにある文化財事務所の建物に併設されています。佐久市内で出土した考古遺物を常設展示しており、定期的に特別展も開催しています。ただ、駒場公園周辺にあるものの、他の文化施設と離れた場所にあるため、あまり知られていません。

#### ウ その他

次のような施設が要望として挙げられています。

文書館、イベントホール、商業施設、スポーツ施設等

### (3) 交通アクセス

建設場所が、駒場公園内、あるいは佐久平駅周辺であれば、JR 小海線から徒歩で行ける距離にあるので比較的便利です。しかし、小海線から離れた地域に住む住民には利用が困難であることには変わりはありません。

佐久市では、交通弱者を念頭に、「佐久市地域公共交通計画」を作成して実施しています。通学者のためにスクールバスや路線バスを走らせ、市内在住の住民には予約制のデマンド交通を利用できるようにしたものです。交通弱者の課題を解消する施策ですが、図書館利用に関して次のような難点があります。

- 路線バスは、登校と下校の時間帯に合わせているので、この時間帯以外の本数は極端に少ない。これは、小海線も同様である。
- デマンド交通は、予約制なので思い立ったときにすぐに利用するという使い方をしづらい。
- デマンド交通は、佐久市の住民以外に使用できない。
- 「佐久市地域公共交通計画」は自家用車を使うことが前提で計画されている。また現状の交通事情も自家用車を使用しなければ往来が困難である。

### (4) SDGs

SDGs は、2015 年国連で採択された持続可能な社会を実現するための目標です。佐久市では、「第二次佐久市総合計画後期基本計画」において、SDGs が目指す方向性は総合計画で取り組む方向性と同じであり、総合計画の推進を図ることが SDGs の目標達成につながるとしています。

また、2022 年に改定されたユネスコ公共図書館宣言<sup>6</sup>では、公共図書館は、宣言で謳っている「情報、識字、教育、包摂性、市民参加、および文化に関連した」基本的使命を通して、持続可能な開発目標（SDGs）に貢献するとしています。

本市の図書館においても、佐久市の掲げる基本計画の実現に関与することで、またユネスコ公共図書館宣言で謳われている図書館の基本的使命を果たすことで、SDGs の目標達成に寄与します。

### (5) サービス計画

新しい図書館を見据えた図書館サービス計画を立案します。

---

<sup>6</sup> 宣言名は、「IFLA-UNESCO 公共図書館宣言 2022」。1949 年に初めて宣言された。2022 年は、1972 年、1994 年に続く改定。

<https://www.jla.or.jp/library/gudeline/tabid/1018/Default.aspx>

IFLA は International Federation of Library Associations and Institutions（国際図書館連盟）の略称。図書館の国際組織。

#### (6) 運営体制の見直し

現在の図書館活動を活発にし、新しい図書館の準備を進めていくためには、そのための体制を整えていく必要があります。

職員の勤務体制の見直し、増員、職員の司書率のアップが望まれます。

#### (7) 防災機能の確保

災害応急対策に対応した防災機能の確保について検討していく必要があります。

### 3 市民とともに

新しい図書館は、市民とともにつくっていきます。

#### ア パブリックコメント

パブリックコメントを実施して、広く市民の意見を求めます。

#### イ 広報活動

図書館建替に関わる情報は、ホームページ、広報誌、館内掲示に掲載していきます。

#### ウ 対話

市民との対話の機会を設け、情報発信するとともに、市民からの意見や要望を聞く機会を持ちます。

## 資料編

### 1 佐久市立中央図書館建替再整備検討委員会設置要領

#### (設置)

第1条 佐久市立中央図書館建替再整備に関し、様々な分野の専門家から意見を聴取するため、佐久市立中央図書館建替再整備検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

#### (任務)

第2条 委員会は、佐久市立中央図書館の建替再整備に係る基本構想及び基本計画に関し、必要な事項を検討する。

#### (組織)

第3条 委員会は、7名以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから佐久市教育委員会（以下「教育委員会」という。）が委嘱する。

- (1) 図書館等の建設及び運営に関し識見を有する者
- (2) 学識経験者
- (3) 前各号に掲げる者のほか、教育委員会が必要と認める者

#### (任期)

第4条 委員の任期は、基本計画策定の日までとする。ただし、委員が欠けた場合における後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

#### (会長及び副会長)

第5条 委員会に会長及び副会長各1名を置き、委員の互選により選出する。

- 2 会長は、会務を総理し、委員会を代表する。
- 3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

#### (会議)

第6条 委員会の会議は、会長が招集し、会長がその議長となる。

2 会長は、必要があると認めるときは、委員以外の者に出席を求め、その意見若しくは説明を聴き、又は委員以外の者から資料の提出を求めることができる。

#### (庶務)



第7条 委員会の庶務は、教育委員会社会教育部中央図書館において処理する。

(その他)

第8条 この要領に定めるもののほか、必要な事項は、別に定める。

附 則

この要領は、令和4年11月17日から施行する。

## 2 佐久市立中央図書館建替再整備検討委員会委員名簿

(任期：基本計画策定の日まで)

(敬称略)

	氏 名	職 業 等
会長	植 松 貞 夫	日本図書館協会 理事長 筑波大学名誉教授 (工学博士)
副会長	豊 田 高 広	フルライトスペース株式会社 特別研究員 (元田原市図書館長)
	朝 倉 久 美	長野県野沢南高等学校 主査 (図書館司書)
	小 木 田 順 子	幻冬舎新書編集長
	森 い づ み	県立長野図書館長 (前信州大学附属図書館副館長)
	森 田 秀 之	(株)マナビノタネ代表取締役 日本建築学会会員
	柳 澤 拓 道	ワークテラス佐久 管理運営責任者 (株)MoSAKU代表取締役

### 3 佐久市立中央図書館建替再整備検討委員会記録

開催日	会議名	内容等
令和5年1月17日（火）	第1回佐久市立中央図書館建替再整備検討委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建替再整備に向けた取組の状況報告（アンケート、ワークショップ）</li> <li>・再整備を進めていく上での基本となる部分である「理念とコンセプト」及び「6本の目指す姿」について、委員に意見・提案を依頼</li> </ul>
令和5年2月27日（月）	第2回佐久市立中央図書館建替再整備検討委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・柳田佐久市長が出席し、図書館についての思いを語った。</li> <li>・各委員から出された意見・提案（「理念・コンセプト」等）について意見交換。</li> </ul>
令和5年7月12日（水）	第3回佐久市立中央図書館建替再整備検討委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視察研修（浅科図書館、望月図書館、五郎兵衛記念館、天来記念館）</li> <li>・地域図書館とその類縁施設を見ていただき、地域図書館の役割や中央図書館との関係等について考える場とした。</li> </ul>
令和5年10月3日（火）	第4回佐久市立中央図書館建替再整備検討委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視察研修（臼田図書館、サングリモ中込図書館）</li> <li>・サングリモ中込図書館は中込地区中央グリーンモール再整備に伴い、改修の予定となっていることについて説明した。第3回と合わせて、市内すべての地域図書館を見ていただくことで、佐久市に即した建替再整備の基本構想を検討していただく材料とした。</li> </ul>
令和6年1月31日（水）	第5回佐久市立中央図書館建替再整備検討委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・佐久市立中央図書館建替再整備基本構想</li> <li>・佐久市立中央図書館建替再整備の基本構想について意見をいただいた。</li> </ul>